

蕪	七二八九七	三〇一、四六二	三七三、三五九
亂絲頭	六三七、八七四	一、四〇八、二七一	二、〇四六、一四五
綢緞	一、一七八、二八〇	八八五、六二四	六、二六一、七三二
山東絹紬	九、四四四	二九八、八五四	四五二、三九二
山羊皮	二〇三二	四四九、九一五	三〇八、八六五
白草帽緞	四四、六二〇	一九〇、一五八九	一九四、六七三
赤糖	三	一、四九〇、二三一	一、四九〇、二三四
白糖	一〇	一九三八、八五〇	一九八三、八六〇
冰糖	二、一八二	二二四、五七四	二二四、五七四
紅茶	七、六六六	五五〇〇、九五二	五五〇七、一七八
綠茶	七、六六六	三七七一、五七四	三七九三、二二〇
茶磚	七、六六六	一、四三二、三四一	一、四三二、三四一
烟葉	七、六六六	一、七三三、三七四	一、七三三、三七四
烟絲	七、六六六	一、一八三、四三〇	一、一八三、五六〇
素麵	一、七九九	四三六、〇〇五	四三七、一二七

白蠟	五	五四〇、四四五	五四〇、五四一
小麥	二八、一五〇	五八、九五二	一、三二四、七七六
羊毛	一一	五五五、七七五	五九一、二四七
薑餅	一一	三九〇、一二七	三九五、八〇五
綠豆	三、三五七	一、三三七、七四三	三三七、九四七
黃白荳	三、九一九	二八七、四四五	三三二、七六八
書籍	三、九一九	二五、一九〇	三六五、七五四
漆器	五、二四三	一、三九七、一六	一四〇、六〇五
磁器	一、九一二	二五四、三三九	二六、一六四三
粗磁器	六八、六四七	一、八五、三九三	一、三〇〇、九七
土布	四九五、三九八二	一、二〇〇〇	一、二〇三、八一〇
銅貨	四九五、三九八二	一、二〇〇〇	三、一六、九七四
棉花	四九五、三九八二	一、二〇〇〇	七、八八九、八三八
錫	八六	一、六一、七九一	一、六五、八八四
扇子	八六	七、七六、四五	一、三四、〇〇四



錫毛	二七六三八	八三、三七五	一一六、九〇三
菌	一〇	二〇六、五七八	二〇六、五八九
夏布	一六、四〇六	一〇六、六九二	一七六、一九四
蔴	二二〇	六三四、四五三	六三七、一九四
牛皮其他皮類	一一三三五	六六九、四二四	六七一、〇五二
乾百合花	一二	三〇七、六九七	三一四、九二四
龍眼肉	一	一六三、八三〇	一六三、八九三
藥材	二、四一七	一、一八一、九九八	一一三、五八八二
麝香	七、三〇五	二六三、二五五	二七二、九七〇
五倍子		三六八、四八五	三六八、五三五
茶油	一一六、九三三	一一六、九三〇	二
胡麻油	六六七、〇四二	六六七、〇四二	
木油	七	二七〇、二二五	二七〇、二五五
上等紙	五、七一〇	九〇二、六八九	一〇二、〇五一
中等紙	六〇六	五五四、三一一	五五五、九九〇

大黃	七、八五	二四二、九二八	二四三、八二一
米	七、三〇三	七七一、〇七四	六二〇、三六六〇

漢口

位置

漢口は湖北省漢陽府漢陽縣に屬し古夏口の地たり長江の左岸に瀕し上海の上游三百二十一里に在り北緯三十度三十三分東經百十四度廿七分に位置す人口七十四萬餘東南長江を夾んで武昌あり湖廣の首府にして人口二十四萬五千南漢水を隔て、漢陽府あり人口十六萬餘三市鼎立相合して一大都府の勢をなす湖廣重險の一に居り又天下四大鎮の一たり湖廣の名山たる大別山其北に在て湖廣の大川たる漢水其麓を過て長江に朝す舟楫自在運搬利便世呼て九省の會と云ふ殊に開港以來益隆昌し赴き其貿易の盛大なる支那各開港場中



上海に亞くの地となす本年重慶の通商港となるに至り益其  
 價値を高めんとす

市街 市街は長江に瀕し漢水に沿ひ西に向て弧延す其長さ殆ど三  
 里幅僅かに二十乃至二十五町に過ぎず一連の城壁東江岸よ  
 り起て西漢水に到り以て市街の後背を劃す其狀恰も偃月の  
 如く門を穿つ六同治二年の創築に係る而して其長江の西岸  
 城内の北部を居留地と爲す其詳なるは之を居留地の項下に  
 説くへし其南一馬路を界して支那街と爲す河街中街後街の  
 三縦街あり屋宇鱗列舗塵稠密大厦は築くに磚瓦を以てし小  
 屋は造るに木を以てす街面狹陋巷裡汚隘江岸より漢水に沿  
 ふて城の西端に連る此西端を橋口と云ひ渠溝あり玉帶河と  
 云ふ漢水より岐して外城壁の下を回り其北端に至り江流に

住居  
 景况

通す而して城壁の内面は一條の水路を隔て、許多の潭流あ  
 り常に惡水を満たす加ふるに所々糞尿坑あり分れて二巡司  
 を置き西橋口より金庭公居と云ふ所に至る居仁由義の二坊  
 を立て仁義司に屬し此より下茶菴と云へる所に至る循禮大  
 智の二坊を建て禮智司に屬す城外の北面は一望開豁遙かに  
 阜岡の起伏するあるのみ城後中央より僅にして一湖あり後  
 湖と名く年々夏季多雨の候に至れば湖水汎濫して城外滿地  
 洋々たる大湖と爲り白帆風を孕んで舟縦横に走る  
 漢口は四民雲集五方雜居貧富相交り貴賤相接し比隣櫛比到  
 る處餘地を存せず只大街は概して大厦高樓相連り商民の資  
 力裕かなるもの此に在て貿易をなす小港に至つては概して  
 窮民の居處にして且巷中概ね大厠房を設け以て近街の不潔



を集め殆んど鼻を掩ふて過くるの觀あり今各商店位置の概畧を擧げんに藥材舗は沈家廟正街及河街の上下一帶に廣福の雜貨舗は流通巷中碼頭及河街の上下一帶に山貨及ひ春肥の舗は花樓の正后二街及大興老永の兩巷を以て最も多しとなす土木水の各菓舗及ひ魚舗ハ龍王廟の近傍に綢緞及洋布等の舗は多く廣陂街に麻布舗は鳳麟街に及ひ蘇貨は新街及夾街に多く鹽舗は鮑家巷及大碼頭の上下前后にあり米糧舗は楊家河南岸嘴及土墻の三處にあり回々教徒の如きは率ね廣驛橋前に西北各口の皮貨舗は則ち鮑家巷河街の上下にあり山陝雜貨舗は青龍街に在り藥王廟の後堤の如きは盡く皆古玩玉器の舗號のみ銅工を業となすものは率ね後堤に列し木匠の如きも亦此に在り新河は概ね皆舊船の板廠にして蔬

菜の園戸は皆後湖の堤畔及ひ橋口沙包の外面に沿へり其他學堂茶館酒樓錢店及金鐵錫等の零物店は各街に散在し以て其業を營む八角亭は多く乞丐の住する所たり各工作手藝の徒は皆陋巷に居す貧窮の徒は大概樓上を借り居住するもの多し又極めて貧困なる徒は蓬子と稱する尤も粗造にして且つ小なる小屋に住し乞丐の如きも亦然り又各街には處々に營房あり以て地方の彈壓に資す其有様は殆んど我國巡查の交番所の如し衙門は道臺署清軍府糧捕府仁義司禮智司淮鹽督銷局あり城壁上に兵營並列し市内寺院三所廟二十六所俱樂部七十所善堂三十所あり街上轎子に乗るもの甚た多く茶時の如き各碼頭にあるもの三千餘の多きに至る又其貨物の運搬は多く挑夫の肩に資く若くは一輪車を以てす



人情  
風俗

此地は古より五方雜處所謂九省の通衢にして近來更に開て互市場となし愈其繁盛を極むるに至り客居の商估益多きを以て其細事の如き家々其習慣を異にし到底列擧するに遑あらすと雖とも特に此地固有の風俗と稱すへきものなし而して其冠婚喪祭の如き人の重事に至ては支那通般の風俗習慣ありて本地雜處各地の人士亦皆畫一之に遵ふか故に今特に茲に掲けず看者請ふ風俗記部に就き之を見て可なり人氣は遠く内地にあるの都府なるか故に固より沿海開港場に於けるか如く輕薄ならずと雖とも其内地の地方に比して狡猾奢侈の俗あるは開港場殊に五方雜處の本地に於て亦免れ難き所たり而して其通商日己に久しきに拘らす洋人を惡むと頗る甚しとす而して本地は元貿易商賣專業の地たるか故に文

學の如きは頗る冷淡の如き感あり讀書講學の輩の如きは皆去つて武昌に集る唯其俗は一般に稍慍悍の風あり蓋し湖北の地方は支那國內其人勇悍を以て聞ふ而して武昌の如きは直に對岸にあり戰を喜ひ勇を好むもの尤も多く漢陽は近く指顧にあり勇悍風を成し死して悔すと稱す此地住居のもの亦勢慍悍ならざるを得ざるなり且つ無賴萍寓の徒滿街囂々常に幾百人なるを知らず亂を喜ひ鬪を樂む事あれば一嘯雲の如く聚まる古來亂を長江になす漢口必ず其衝に中る蓋し其財産の豊なると無賴の徒に富むを以てなり  
此地客居の商賈は同郷相結ひ共同墓地を備へ以て停柩の場となし多く漢陽の各山にあり又善堂特設の義塚なるものあり以て専ら貧困の者の爲めにす喪事は頗る鄭重を務む其婚



嫁の俗毎に男家に舅姑妯娌のなきものを好み又聘禮の豊厚なるものを貪り自己門庭の高下を度らす惟に婿家の富有なるを擇の風あり出産誕辰の禮亦頗る厚し商家其業を開く之を開帳と云ひ通常正月四日を以て小開帳となす大開帳は一定の期なし新街の如き其開帳に際し最も繁華を極む他街は其期日一律ならざるも新街は年々一律齊整たり新春晴暖の候に至れば北傍の後湖綠草青毡の如く男女相携へて湖に遊ぶ各種の戲藝悉く此地に集り一刻千金の快樂境となる二六九月には齋戒をなすもの多く各廟の香資を收むる概ね此時を以てす六月酷暑江水漲れば舟を月湖に泛ふ之を遊湖架と云ふ此地人烟稠密貧民の住居は概ね甚小にして熱氣の襲に堪へず故に多く露宿をなし力役者の如きは地上に臥す九月

九日重陽節にして菊花會なるものを設け各會館に於て宴をなし戯を演す此の時適洋人居留地競馬の期にして頗る雜沓を極む臘月に至れば近隣の都邑より來りて陸續年貨を辨し生意頗る景氣を加ふるを見る此地飲食は略一定して午晚二餐の外早朝饅頭を吃し商家の如き夜半粥麩包及油餃糕餅等を食ふ

氣候  
時令

冬季は十一月より三月に至り極寒二月中三十一二度より下り暑氣は五月より九月に至り極暑七八月中百度以上に上るとあり其詳なるは之を氣候の部に譲る陰曆九月中陰雨多く同十一月より二月に至る間降雪三四回積て尺餘に至るとあり春日東南風夏日南風秋日西南風冬日東北風を常とす春季瘟病あり夏日吐瀉多く秋日稍痢病あり冬日熱に感するものあり



り然れども氣候は人の健康に適せり夏日木造の古屋には床虫蚊子頗る多く飲水は江水或は河水を取り漉して之を用ふ而して其質甚た善良なり

居留地

居留地は長江の西岸に近く城内の北部に位置す岸頭楊柳暢茂し街路廣濶大厦高樓頗る壯麗なり街は江に添ふて長く河街中街後街の三條をなし横街は頭馬路より五馬路に至る此最北端なる城壁の許に競馬場あり之に對して花園あり領事館は英、米、佛、魯、獨、和蘭とし獨り日本は本年十月之を撤去其跡寂然居留本邦人は恰も暗夜に燈を失ひ盲人の杖を奪はるゝの感あり税關あり英、米、佛、普、魯、丁、清の人其務に服す郵便局あり電信局あり警察署あり銀行ハ英一にして洋舗は英、米、魯獨、日本、印度國の人あり其他學校病院遊戯館等あり

瀛船碼頭

瀛船碼頭は洋街の江岸より支那の江岸に連りて數ヶ所あり内招商局三個太古洋行一個太平洋行一個怡和洋行一個共に六省あり現今當地と上海の間は往來する瀛船は招商局の船四隻太古洋行の船三隻太平洋洋行の船二隻怡和洋行の船四隻此他和記洋行と稱して獨國の瀛船二隻共十五隻あり故に必ず毎日出入船あり内招商局太古怡和を以て尤も大なりとす然れども招商局は官業にして其取扱方自ら横柄なり故に外人の搭するには太古怡和を以て便とす更に當地と宜昌の間は上下する者あり招商局瀛船二隻概一週日内一回の往復をなす但上海宜昌共日曜日ハ臨時船あるのみ

支那船碼頭

支那船の碼頭八所あり曰く廿八家嘴、犬馬頭、四宮殿、花樓、關聖祠、五聖廟、老官廟、接嘉嘴、是れなり其長江の岸に於て官書往復



の路に當るものを馬王廟米廠四宮殿と云ふ是れ武昌府の大堤口漢陽門の碼頭に通す次に漢水の岸に至れば竜王廟接嘉嘴五聖廟廿八家嘴あり漢陽の南岸嘴接家嘴五聖廟と相對して官書の往復及來去の客を渡す碼頭には官渡船民渡船あり其他到る所の碼頭小舟を以て縦横に來往するを得る又貨物を載卸するの碼頭は橋口楊家河深家廟鮑家巷大碼頭柳家巷周家巷等其數大小二十余所あり大小の舟舶は江岸より回て漢水の兩岸に聯り西橋口と云る所に至る其長さ殆ど二里南岸即漢陽の岸には四川の船多し湖南湖北江西等の船ハ皆此各碼頭に鱗次灣聚し舳艫相啣て實に寸隙を看す帆檣林立の語未た以て形容の眞を寫すに足らず唯水の中央に於て纔に來去の船を通するの隙あるのみ千船朝に去て千船夕に來る

武漢往來船隻

決して虚言にあらざるを見るなり

武漢は其地江漢の會を扼し四方水運の便を恣にす各省貨船の出入するもの毎日其幾百隻なるを知らず其大概を略言すればは則ち湖南よりする所の船隻は悉く長窄形にして其艙頗る深し淮鹽を裝載して上る所の大釣鈎及滿江紅と稱するものは其形頗寛大なり米油柴炭鐵紙等の各貨を塔載し下る所の小馱子倒杓子抄窩子等の船は其形長窄にして首尾頗る尖る龍王廟より接駕嘴の間に泊す衡沅澧湘等各地の船戸は各其地に於て造る所なれば其質頗る堅固にして且つ又清潔なり江西より磁器紙及麻等を裝ひ來るものは其形皆腹部大にして首尾共に尖り之を覆ふに粗造なる竹篷を以てし船材の如きも亦堅牢なるに似たり則ち九江及吳城南昌等に於て製



する所たり襄陽及河南陝西より藥材水草雜貨及米糧を塔載し來るものは皆天寶巷及楊家河の上下に泊す其四川材を以て造るものは其質少しく薄弱なりと雖とも頗る清潔なり然れども其水菓及粗貨を裝ひ來るものは概ね楊杉を以て造れるものにして其裝貨を卸すの後は皆之を板廠に賣る又山東及江淮より往々方形の鹽船來ることあれども多からず江浙よりするものは獨り夾板船あるのみ則ち帆舞と稱する者にして土人は之を寧波船と稱す皆英米諸國の國旗を翻し凜船の餘利を拾ひ上水には石炭石油等の洋貨の粗なるものを裝ひ下水には油石膏及木材其他の粗貨を載し長江源より江浙の沿海を航し來り常に南岸嘴に泊し數隻相并て帆檣を列す四川の船は頭平にして尾高く聳へ長濶にして深艙なり總稱

して柏木船と云ふ蓋し四川の柏木を以て造るか故なり又重慶涪州夔州等の各地方に造るものあり麻鴉或は武班等の名目を附し以て其式様を區別せり然れども麻鴉武班等は宜昌或は棉布に止り其漢口に來るものは頗る稀なり上水には洋布及棉花或は雜貨を裝ひ下水には四川の土産則鹽藥材及砂糖等の類を載するを常とす本省の船を鴉稍と稱し其質は頗る堅くして且又清潔なるも其長短一ならず小形のものをも多となす其塔載する所の貨物は本地近隣の土産にして即棉花茶及各種の布疋菓物米糧等にして近地を往來するに過ぎず又各處の官船は専ら官差を送るとをなし其形長くして寛なり且つ屋根高く窓大に客坐頗る自由なり貨物は塔載に便ならず其他更に舩船と稱するものあり専ら各碼頭上下の



貨物行李を運送するとを業と爲す渡船に官渡船あり其質堅牢にして頗る快速なり毎船四十人を搭載するに足る局を設け官を派し之を督す其他各碼頭にある小舟の如きも自然一定の場所あり或は商旅の行李を運搬し或は瀛船上下の行李商客を搭し以て僅に其日を送るものとす

増減  
江水

長江の水は上游四川雲貴の地方下雪雨漏の多少に因て増減す而して年に増減の時季あり約ね孟夏より初秋の間に増水す即陰曆二月底より漸々増加して七月に至り増水の最高點に上る而して漸く八月より減して冬至に至れば減水の最低點に下る年々水面の高低は少くも二十尺以上にあり之に因て夏季の間は如何なる吃水の深き船艦も進口するを得へく又其最も減水の時と雖ども吃水十二尺位の船は容易に進口

組合  
及其  
商況

するを得へし然れども底沙は流水の方向に因て一夜に變轉するを以て冬季水少の時は最も船主の注意を要す  
本地は支那有名なる大市場なるを以て四方の商估各其資を擁して此の地に雲集し各自其欲する所の業を營もの互に相縁つて組合を結ぶ之を幫と云ふ數十の多きに至る今其主なる者を擧ぐれば左の如し

山西の票號は元と巨萬の資を擁し從來専ら各地の爲換荷爲換を扱ひ頗る信用を世上に博し商旅依て以て便と稱し諸幫の最も推尊する處たりしか近年に至り大に通信の便開け信局即飛脚屋の輕便なるを世人の了知する所となるに至り隨て從來票號の獨占せし爲換利は自然去て信局に歸するに至り依て現今は其圖を改め貸借を業とするに至り其利亦頗



る多しと云ふ

生糸及綢緞は元と江浙地方を推し四川之に次ぎ河南江西及湖北の如きは未だ云ふに足らざるなり其の四川の絲欄杆と稱し婦女衣服の緑飾に用ふるものは當地にて近來頗る景氣宜かりしも今や漸く洋紗欄杆の壓倒する處たらんとするの勢あり

茶は當地の各幫中其最も大なるものにして其利も亦隨つて廣し然るに從來一種の風習あり外人と内商と互に相場を争ふて對峙相和せざるの時に當り廣東及寧波人等の洋語を解するもの其間に立ち一種の奇利を兩方より掠め以て漁者の利を博すと云ふ

藥材は雲南の麝香號歸化の鹿茸號等を以て方今專利の業と

なし人參號は元と利得大なりと稱せしも近來新に數家を添へたるを以て其利亦從前の如くならず又山西河南陝西四川貴洲兩湖兩廣等の藥幫は皆時の相場に依て進退す故に其利不利の如きも平常一定す可からざるの勢なり  
木材及竹の如きは素より湖南の産出に屬し其利得又頗る多しと云ふ其他廣福江浙の海産物廣幫の砂糖蘭洲の葉烟草湖南秀山の桐油雲貴川陝の漆及ひ川楚の木油均洲の木茸應城の石膏四川河南江西等の土木水菓山東の玻璃銅鈴衝洲及攸縣等の錫鐵と湖南の米炭は近來に至り其利甚た大ならず江西涇縣の紙號蘇洲の帽子北京の靴鞋外國の雜貨及ひ散藥質屋雜貨店煉銅鑄鐵金銀首飾等各行は先づ現在資を下し算を握る所の業と云ふ又浙江廣東等の酒館茶樓の如きも景氣頗



る宜しと稱す以上述へし中にて外國雜貨海産物及び北京の靴鞋は今后漸次盛大に趣くや殆んど疑を容れざるものゝ如し又紅綿花及び白蠟は四川に産出し其業頗る大なりと雖も數年前より漸く洋布石油の爲め其利益を殺かれんとす瀛船問屋の如きも旅客官商の往復は従前と異ならざるも近年に至り此業を營むもの甚た多きを加へ其利亦た従前の如くならず鴉片行及鹽行の如きは方今最も恃む可き業となり銅鉛等の行は之を従前に比すれば稍々減少し其他廣西の蔬布廣東の葵扇江蘇四川の蓆山西陝西の皮類は従前と格別の變異あるを見ざるか如し書籍は惟り江西帮を好とし其の他は又従前の景氣なきものゝ如し銀鋪錢店は元と浙紹江西の專業となす所なりとも近年

年に至り浙帮は大に其勢を失ひ目今は只僅に湖北帮の銀鋪及西江の錢店の支持するありと雖も是亦其利得甚た薄くして往年の比に非すと云ふ

## 貿易

貿易 初め外商等の此地に來るや必要な事情に通せさるか爲め蹉跎産を破り終に業を中止するに至るもの鮮なからさりしか爾後愈運輸の便加はるに従ひ漸く貿易の繁盛を來たし現今に至りては十數隻の瀛船日に上海と相往來し商旅駢集百貨輻輳其貨物の出入既に支那開港場中第二等の地位に至り殊に本年初重慶府の開港より此地將來の隆昌實に測るへからざるものあり今税關の報告に由り千八百七十一年より以來十五ヶ年間に於ける内外貨物輸出入の元價を調査すれば左表の如し



年 號	元 價
一千八百七十一年	四〇二七九〇二三兩
七十五年	三四三九七七
七十九年	三九七五〇二五六
八十三年	三九七八五八三一
八十四年	三七七五〇〇二七
八十五年	四三〇三三八八五
十五年間平均年額	三八三六三九七八

今其内外輸出入貨物の元價平均毎年十萬兩以上に及ぶものを品別列擧すれば大約左の如し

第一輸入外國貨物

貨 名	自千八百七十一年至八十五年十五年間平均原價
鴉片マルワ	百二十余萬兩
全 バトナ	十余萬兩

生金巾	二百二十余萬兩
晒金巾	五十余萬兩
小巾金巾	五十余萬兩
雲齊 英	四十余萬兩
木綿織絲	十余萬兩
綿剪絨	十余萬兩
中巾羅紗	十余萬兩
俄國羅紗	十余萬兩
ゴロ 英	五十余萬兩
綾ゴロ	二十余萬兩
ラセイタ	三十余萬兩
ラストルス	十余萬兩
スパニヤストライプス	十余萬兩
眞鍮ボタン	十余萬兩
鉛	十余萬兩



昆布 三拾余萬兩  
 米國上等人參 拾余萬兩  
 白砂糖 拾余萬兩  
 赤砂糖 拾余萬兩  
 胡椒 拾余萬兩  
 白檀木 拾余萬兩

第二輪入內國貨物

絹織物 六拾余萬兩  
 絹紐 拾余萬兩  
 藥種 二拾余萬兩  
 錫 拾余萬兩  
 砂糖白 五拾余萬兩  
 砂糖赤 五拾余萬兩  
 粉茶等 二拾余萬兩  
 生綿 二拾余萬兩

第三輪出貨物

藥種 七拾余萬兩  
 紅茶及粉茶 千百三拾余萬兩  
 磚紅茶 六拾余萬兩  
 生糸 四川 七拾余萬兩  
 五倍子 二拾余萬兩  
 紅花 二拾余萬兩  
 麝香 拾余萬兩  
 白蠟 五拾余萬兩  
 鴉片 四川 二拾余萬兩  
 地木綿 拾余萬兩  
 蔴 五拾余萬兩  
 木油 二百四拾余萬兩  
 菜油 六拾余萬兩  
 牛皮 各種 三拾余萬兩  
 葉烟草 三拾余萬兩



刻烟草 八拾余萬兩  
 油漆 五拾余萬兩  
 蓮子 拾余萬兩  
 菌 三拾余萬兩

右に掲ぐるか如く輸出貨物の重なるものは茶油生糸煙草等  
 とし就中茶の如きは當市上の腦髓血脈とも謂ふべきものに  
 して毎年五六七の三ヶ月を以て茶期と稱し内外の商估四方  
 より群集し就中六月の如きは其取引最も頻煩を極め各種の  
 商業専ら此時を以て一籌千金を博するの時期とす  
 輸入外國貨の大宗と稱らるゝは各種の織物海産物及鴉片等  
 にして是等の諸品は當地に輸入したるの後概皆再ひ水路運  
 輸の便を借り襄陽府の樊城四川の重慶府湖南の常德及湘潭  
 等の各地に運輸し以て内地各處の需用に供する者たり其他

時計銅鐵煤油及各種外國雜貨の如きも一年一年其勢を加へ今  
 后愈其増殖を見るの傾あり獨り鴉片のみは後來漸く其額を  
 減するに至らん是れ他なし當湖北省は彼の亞片生産地を以  
 て有名なる雲南貴州四川等に近邇し其供給日に増加するの  
 勢なればなり  
 今左に最も我國に關係ある當地海産物の最たる昆布鰯の重  
 なる需用地の消費額を示さん

號	境		慶		重
	年	昆	布	昆	
1880		10388	12002	1912821	411492
1882		332299	27285	3928858	237446
1884		161935	45095	1345318	228427



通		海		陸		陸		
年	布	綿	布	綿	年	布	綿	
1880	1726516	88292	311307	2679	1882	2112668	58575	7342
1884	1148836	37356	637908	2250				

右表中重量は支那の斤を以て單位とす

天津

位置  
人口

天津は即ち天津府治の所在にして北京を距る廿九里大沽海口を距る十四里半南北兩運河及ひ永定河の三水會合する三汊點の左岸にあり北緯三十九度十分五十五秒東經百十七度十三分五十五秒に位置す人口六十萬保定大名德州等大市場を控へ寔に水陸交衝の地舟車輻輳の區富賈屯聚百貨豐阜にして南北漕糧の關鑰を持し此地貿易の樞軸を握るの一大都

として其貿易の盛なる蓋し漢口と頡頏し上海の次にありとす  
 地勢 此地近傍平坦開濶渺茫たる曠野天際に連り四周遠く一の山陵を見す唯衛河西より來り北河北より下り合して白河となり蜿蜒灣々として海に向て流るゝを見るのみ西南五里に三角淀あり西北四里永定河の氾濫淹沒地とす原野田圃參錯相半し大道上又は河畔の外村落稀なり而して北は北京の大官道にして若干里間は鋪石良好と稱す東は蘆台北塘太沽に至るの道路は善良と云ふを得す西南は運河に沿ふて南方を通する大官道あり地皆平夷馬車を通す

城市 天津府は周の幽兗戰國齊燕の地、明天津衛を置き清初天津州となし後改めて府となす治下縣六州一を領す曰く天津縣、青縣、靜海縣、南皮縣、鹽山縣、廣雲縣、滄州とす府周繞らすに城壁を



以てす全長三英里、牆高五間、小溝之を環る現今各處崩壞するを見る郭外更に繞すに著名の僧格林沁堡を以てす堡は内郭を距る十五丁乃至三十丁全長十二英里十一門を穿つ深溝高壘頗る堅固と稱す土人之を人墻子と稱す稔匪の亂天津の陥らさりしは全く此堡の効に依る市街は城の内外にありて連檐櫛比、街衢縱横、熱鬧雜沓、買賣甚繁盛にして就中北東二門外を殊に然りとす但城内は道路狹窄尤も不潔を極む白河碇泊の船舶常に數百隻出入の白帆絡繹錯雜たり又天津機器局海老寺機器局あり盛に軍器を製造修繕し城内の水月庵及市街の北郊外凡一里西沽に大倉庫ありて新造の武器を貯蓄し其他所謂運河の漕米を藏する倉庫極めて夥し此地直隸總督李鴻章氏毎年白河水解の候に至れば省會保定府を出て居を茲

に定め内外百般の事務に鞅掌するを以て獨り貿易上の要地のみならず又た政治上の樞區たり殊に鐵道の開通以來日に月に繁盛に赴き烟戶益稠密を加ふるを見る

地居留

居留地は白河の南岸殆んど一英里を距つる紫竹林の地にあり外人は概ね英佛二國の居留地に住す其戸口は千八百九十年の稅關報告に依れば四十七戸六百十二人なり日本商店は三井物産會社支店、樂元堂、武齊號の三店にして三井店は茶、昆布、材木等を卸賣し樂元堂は日本綿布類及ひ藥を武齊號は雜貨を販賣す其他日本人の散髮洗衣等に從事する者あり亦英國居留地には一個の會館あり千八百八十八年竣工する所にして構築頗る壯麗なり又ウキクトリヤ公園と名くる一小鬱散地あり其新聞は従前清字日刊新聞なる時報及西字週報あり



りしも一昨年共に之を廢したりしか其時報は本年之を復興  
し爾來日々刊行以て今に至れり

瀛船會社及銀行

本地に於ける瀛船會社は商招津局、怡和輪船會社の外他は皆  
代理店を設く太古輪船會社の代理店は大古、有限海岸瀛船會  
社の代理店は太古、支那載貨主交互瀛船航海會社の代理店は  
仁記、上海交互瀛船航海會社の代理店は仁記、半島及東洋瀛船  
航海會社の代理店は怡和、ジエレン線路瀛船會社の代理店は  
怡和、日本郵船會社の代理店は美昌、太古駁船會社等とす又た  
銀行は公達銀行、德華銀行、淮豐銀行及び新東洋銀行代理店仁  
記、有利銀行代理店、怡和、麥加利代理店、世昌、倫敦、ヘルソン、ジャ  
コブ銀行代理店、泰昌等とす

風俗物産

本地の風俗は頗る不良に屬し狡黠にして稍慄悍の氣を帶ふ

又無賴の徒混々と稱するもの多し然れども郊外村落の地に  
至れば人民淳良質朴にして阿片を喫するか如きもの甚た稀  
なり其の物産は鹽を以て大宗とし白河の東岸巨斛の食鹽を  
堆積して其狀恰も堤の如く頗る壯觀なり其他葡萄、梨子、水蜜  
桃、絨毯、毛氈、皮貨、草帽、魚類等とす其氣候は烈暑は百六度に  
至り極寒は零度以下六度に達することあり

交通埠頭

本地は北部支那の要地に當り京師の咽喉を占め陸路は陝西  
甘肅山西及長城外の地方に運輸する貨物は皆馬車を以てし  
水路には運河民船の便あり以て南方に通じ其白河には瀛船  
の利あり以て芝罘、上海及朝鮮日本に往復す然れども水淺く  
幅狭く大船巨艦を入港すると能はず唯吃水十尺半乃至十一  
尺の船舶出入し得るのみ而して年々十二月初旬より結氷し



船舶の交通を絶ち貨物は小舟又は橈車に載せ氷上を滑らして本港に達す或は氷の未だ堅固ならざる間は之を破りて太沽に陸揚し該處より更に瀛車の便を取る其翌年二月末若くは三月初日暖に氷解るや否瀛船先を争ふて來り貢舶南船帆を列ねて入り急に天津の風雲を一變す又快況たり埠頭は天津城外白河沿岸一帯にして其居留地には八ヶの瀛船埠頭及内外軍艦用の埠頭四ヶ及小なるもの若干あり皆支那各地の埠頭の如く直に船体を横着す又電線は千八百八十一年始めて上海より本港に通し爾來年々増架し遠きは朝鮮甘肅より近隣四周通せざるなし其他太沽との間には特に電話線を設架せり

貿易

由來 本地の開港は千八百五十八年六月二十六日英人口ロード、エル

チン氏の清政府と訂結せる所謂天津條約に成る當時同氏の廟宇に於て其調印をなしたるを以て此廟を呼て條約廟一名エルデン廟と稱し同氏の名は今に至て尙人口に膾炙す後ち千八百七十年六月二十一日忽然無賴の匪徒蜂起し佛國宣教婦及其他の外人を慘殺し財貨を奪掠したるか爲め外國との交渉事件となり遂に清政府其損害を倍償して局を結へり爾來平穩亦貿易の餘澤を被り月々年々其歩を進め以て今日の隆盛なる貿易場となるに至れり

貿易 千八百八十九年に於ける本港貿易の總價額は三千百二十四萬零五百十五兩にして之を前年に比すれば増加すると三百二十八萬六千四百九十八兩とす其輸出入額及重なる貨物取引の景況左の如し



輸出 同年間輸出の總額は八百七十六萬四千六百零五兩内、再輸出に係るもの四百零六萬四千五百五十四兩純輸出四百七十萬零四百五十一兩たり其商況白草帽纒は一萬千六百九十六担にして前年より減すること三千六百六十二担色付草帽纒は四千五十担にして前年に比し大差なし其黃白草帽纒は二萬千三百七十七担九斤なりとす開平炭は逐年勢を増し五萬千九百五十九担の多きに至り前年に比し一萬三千九百九十七担を増加し威海衛芝罘旅順港に輸出せり又山海關の西方十英里の地に一新礦山あり石門と云ふ許多の石炭を産出せり蘇は同年印度地方不作の爲め本港の輸出を増し一萬三千六百十八担の多きに至れり茶は皆恰克圖を経て魯西亞に輸出するものにして三十六萬零七百零八担にして前年に比

し一萬二千六百四十九担を減せり山羊皮は五十萬九千七百十三枚駱駝毛は二萬五千六百八十担にして最近八ヶ年間同年を以て最多とす棉羊毛は六萬二千五百七十八担にして八年前僅に二千三百担なりしも爾來年々増加して今日の額に至り尙益盛なるの勢あり

外國産輸入 同年に於ける外國産輸入の總額は千五百三十七萬七千八百四十五兩にして之を前年に比すれば百八十萬兩を増加せり中鴉片は千五百二十八担にして前年に比し二十七担を増し金巾は四百二十七萬六千八百八十八担にして之を前年に比すれば十九萬八千零七十八担を増せり是れ黃河水害逃避のもの故土に歸りたるに因る棉絲は六萬六千九百三十一担にして其内五萬八千七百六十六担を孟貝産とす



石油の輸入は二百八十萬ガロンにして之を前年に比すれば實に五十萬ガロンを増し内百十九萬八千六百ガロンは米國産にして其他は皆魯國産なり魯産は油煙多く光輝微なるも其價米産より稍廉なるを以て其需用多き所以なり針は六十九萬一百包にして之を前年に比し三萬六千八百五十包を減したり蓋し質甚た疎にして信用を失したるに因る顔料も亦同じく十七萬三千九百八十四兩にして前年に比し六萬兩を減せり赤糖は二十八萬二千二百六十五担白糖は十二萬七千零九十一担餘なりとす又日本より輸入の物産は煎海鼠、乾鮑、魚翅、昆布、伊多羅具、寒天、番茶、人參、海龍皮、獺皮、鹿角、銅、漆器、越後縮、木材等にして其他同年間日本茶の輸入は二萬千四百零一担なりとす

内國産輸入 同年間に於ける内國産輸入中紅茶は七萬八千六百五十三担にして前年に比し四萬四千四百一十一担を減し綠茶は一萬九千九百七十四担にして前年に比し二千五百担を減し磚茶の如きは其減額尤も甚しく廿七萬四千四百二十担にして前年に比し六萬五千六百担を減せり是れ前二ヶ年間の輸入甚た多くして貨物の猶滞存する者あるを以てなり

### 廣東

位置  
人口

廣東は廣東省の首府にして即ち廣州府治のある所なり一に省城又は羊城と稱し或は單に廣東と云ふ珠江の北岸に瀕し北緯二十三度七分十秒東經百十三度十四分三十秒に位置し人口八十一萬連山北に峙ち大海東を環り封城綿邈田壤肥沃所謂夷夏の奥區、仙靈の窟宅、百越の中心五嶺以南の大都府な



り殊に海外貿易夙に開け百貨輻輳、民物殷富蓋し亦南部の一  
大貿易港と云可し

## 地理

此地一般の地勢東は珠江の北岸に沿ふて波状をなし其間水  
田、畑地、村落、犬牙交錯し北は一條の山脉越州山より起り東北  
に至りて直に白雲山に連る白雲山は城北約そ二里にして近  
傍第一の高山と稱す西北は殆んど平坦の耕地にして遠く諸  
山を望み西南二面共に珠江を繞らし西南一帶人家最も多し  
其近傍の各地南は順德縣に至る十二里半西南新會縣に至る  
十七里西三水縣に至る二十九里半東增城縣に至る二十四里  
北從化縣に至る十五里道路狹隘車輛を通せず陸路の運搬頗  
る困難なり然れども水路縱横舟楫殆んど通せざるなきを以  
て其貨物運送の利便素より陸路に藉るを要せざるなり

## 城市

此地春秋揚越の地三國の時吳始めて廣州を置き明に至り廣  
州府となし清之を襲ふ治下縣十五及直隸州一あり曰く連州  
其下陽山、連山縣あり其他は南海、番禺、順德、東莞、增城、新會、清遠  
新寧、從化、香山、龍門、三水、新安縣とす府周繞らすに城壁を以て  
す全長約二里墻高五間厚三間十六門を開き東南西の三面に  
水壕を繞らす城内南海番禺二縣之を分治す人家は城内及ひ  
城外の西南二面尤多し市街は皆布石道にして其幅概ね六七  
尺に過ぎず家屋は皆造るに煉瓦を以てし連檐櫛比肩摩擊  
其雜沓名狀すへからす今其著名地の二三を擧ぐれば打銅街  
は市街殷實買賣執鬪、銀行綢緞最も多し漿欄街は藥材及丸藥  
を以て知られ西榮巷は富者最も多く亦銀行を以て稱せらる  
双門底は書籍店多きに居る陳季濟丸藥店あり誠に粵東の第



外國人居地  
沙基

一と稱す又十一甫十三甫寶華坊は大紳多く聚り街上清潔美  
 屋最も多し連新街は繁富を以て稱するの地に非らずと雖と  
 も旅屋及職工人の多きは實に此地を以て最となす其他尙繁  
 街の記すへきもの多しと雖とも今之を畧す城内寺院各所に  
 散在し宏壯雄麗高く天外に聳ゆ其他考試場造兵所及諸衙門  
 の大厦并に天主堂あり甚た盛觀を添ふ又北門の傍に造幣所  
 あり最も有名なるは鎮海樓にして城の北端越秀山の上に在  
 り外人の此地に遊ぶ者一たひ此樓に上らざるなし樓上に立  
 て四方を展望すれば近傍内外の景況一目瞭然たり  
 沙基は一に沙面と云ひ土人之を鬼基と云ふ蓋し外人を稱し  
 て蕃鬼佬と云ふの故なり此地舊と河邊の淺池にして稅館口  
 と唱へ米埠のある所なりしか今を去ると二十六年英人始め

て此島を築き金を費すと三十二萬五千圓日を要する二年半  
 始めて其功を竣れり而して其五分の四は英國の供する所に  
 して五分の一は法國の給する所に係る故に兩國領する所の  
 地亦其比例に従ふ周圍約二千米突外岸美石を積堆し南面珠  
 江の白鷺潭に臨み他は皆小流を隔て西關西門外の諸市街と相對  
 し其東南二方に於て鐵橋を架し以て往來を通し此に鐵門を  
 造り以て出入を檢す看門者あり洋服を着せしものを見れば  
 急に大門を開き過ぐれば又之を閉し支那人の出入は皆小門  
 よりす且つ其小門の出入を得るも亦洋人の婢僕のみ自餘の  
 支那人は決して入るを得ず圍内巡查あり皆支那人なり洋館  
 三十六屋英國郵便局一つあり又花園あり甚た美ならず其他  
 空地に屬するもの尙ほ尠からず



所停船

上海其他の地方に往來するの大船及外國軍艦は白鷺潭即沙面の南方五十間餘の處に停泊し澳門に通ふの汽船は其東端に止まり香港に航する者は其下流にして榮陽大街及德興街の二處に灣住す土人此地を稱して瀛船埠頭と云ふ二處相距る約六十米突共に棧橋あつて瀛船直に横接し上下運搬共に便なり廣東所屬の軍艦は又其下流にして海珠島及碼頭の近傍に泊し常に六七隻を見さるとなし其他洋形帆船は下流二里九丁の黃埔に止まりて此地に來らす

定期航船

廣東香港間の定期に供ふるもの大約常に瀛船五隻あり内四隻を以て常航と爲し毎日午前八時三十分午後五時三十分の兩回に於て兩地を抜錨し午前三時及午後三時に於て兩地に投錨す其船名は即ち河南、九江、漢口、保安、涼州とし漢口はバタ

ビユールスクウキヤ會社の所有に屬し米商の運轉する所なり

澳門常航の瀛船は三隻あり中二隻を以て常航とす内江平號は招商局の所有にして士迫粵西の二船は共に米商の所有に屬す毎日午前八時兩地を發し午後三時兩地に達す其他尙上海間の定期航あり

税關領事館

税關は珠江の北岸瀛船埠頭の上流約十五間にして隆興街中に在り俗此地を稱して税關口と云ふ關中雇ふ所洋人二十七人あり洋人の荷物は之を改めされども日本人及支那人の貨物は嚴密に検査するの風あり是れ支那港の通患たり此地各國大約領事館を置き英、米、普、佛の四國は常に專任領事を派し奧地利亞、西班牙、瑞典、那爾威等の如き此地在住の名望者に托



任せり

船種  
船數  
船住

廣東は天時の溫暖なると水利の至便なるとに因て船住の民甚た多く河中幾んど小都を開く景況あり今左に其船數及船種を示す

第一横水渡船 三百十餘隻

船の長サ五六米突橈者二人中に五六人乃至七八人を容る渡頭各所管あり各馬頭往來の多少に準じ之を十二ヶ所に分配す一所數十隻乃至五十隻とし隨意に他所に行くとを許さす

第二沙艇 一千七百餘隻

往來客を送る小艇なり大さ渡船に同く大概六七人を容る可し

第三紫洞艇 八隻最大のもの

富家賓客を招き筵を張るの艇なり長十八米突許幅四米突許所謂花艇なり

第四圓頭逢及底艙 共五十隻

圓頭逢は紫洞の中等なる者にして底艙は其小なる者なり

第五屯鋪艇 八十餘隻

此艇亦紫洞の類なり

第六巡船 五十隻

此船每汎一隻中に水師兵百名乃至五十名を容る

第七救生船 二十隻

此船は官設に係り溺水者を救ふに供す或は大或は小一



定ならず中に五六人或は七八人あり

第八孖船艇 三千餘隻

往來客を送るの快船なり其數の多き此の如しと雖とも常に諸方に往來して一處に停滯せず

第九渡船 渡場の謂にあらず 大約一千隻

闊さ十三四尺長さ六十四五尺を通常とし尙之れより大なるものあり或は少なるものあり郷民之を用て貨物を運搬す其船底は貨物を藏し上面は客人の坐する所たり常に各地を往來して一處に止まらず即佛山渡、三水渡、新會渡、潮州渡等の如し

第十鹽船

此船數種あり其各處より鹽を販し省に至るものを頭猛

と名け黑糟と呼ひ其省より出て廣西地方に往くものを鹽船と云ふ

上文記する所大約六千三百五十隻あり皆船主ありて其中に住し水上年を送り河上又春を迎ふ言語風俗自ら陸上の者と異なり人最も之を賤む今假りに一船五口を以て平均するも其全人口幾んど三萬二千に近し又殊境と云ふへし其他尙小艇漁舟不尠と雖とも今之を畧す

物產 廣東は諸水の總滙たるを以て貨物の輻輳亦隨て多し故に其土産と稱する者悉く此地に産するに非ず多くは他郷の産に係る即茶、絲、夏布、蔗、綿花、鹽、烟、蔗、絹、酸、枝、藥材、珍珠、磁石、麻、米、麥等の如し其他尙ほ老坑石 硯を製す、琥珀、碼、礮、銅、鐵、石炭の類なり

氣候 此地寒暑夏季は華氏檢溫儀八十七八度より百度の間に昇降



し稀に百十度に昇るとあり冬時は五十四五度より七十度前後に出入し稀に四十度に降るとあり以て寒暖の不順を知るへし其天候は一二月の間北風甚た多く雨最も少し其北風あるの日は陰雲滿天最も肅殺を覺ふ二月中は大雨連旬殆んど晴天なきか如し四月亦雨多しと雖とも三月中に比すれば稍少し五月より八月の間南風常に多く時に東北風至れば雨隨て下り甚たしければ則ち颶風となる八九月秋中西風酷烈暑熱盛夏より甚しく民疾病多し十月は天氣漸く和平に歸し淫雨日に減すと雖とも熱冷時に齊しからず十一月に至れば北風漸く來り天色朦朧始めて冬天の況を呈す十二月以後北風常に多く降雨最も少し而して微雨適々至れば則ち寒氣凜烈たり

人情  
風俗

廣東は民豊かに物阜なるを以て近縣より來往する者甚た多し故に此地の人情を述べんとすれば併せて近傍諸縣を記せざるへからず番禺南海順徳の三縣は文學隆盛省内に冠たり其時文の如き少童尙ほ之を巧にし既に秀才と爲るに至れば揚々親戚朋友に誇り他人亦之を尊敬す商工は能く其業を勉め或は遠く海外に出て或は他郷に住し辛苦を厭はず不潔を嫌はず節儉力行赤貧より起り以て數千或は數十萬の富を致すもの少からず然れども鴉片を好て資産を靡し賭博をなして不良に陷る者亦甚た多し

廣東人は清國中慄悍を以て稱すへきの民なり就中東莞縣を以て最とす然とも不良相聚りて盜をなし或は旅客を劫かす者亦此地に多し番禺縣内洗村石牌長坂龍眼洞等の處の民俗



最も惡しく人にて賊藪となす又東莞の類なり  
 此地開港以來既に數十年居民英語を談する者多く婦女小童  
 亦之を解するに至る然るに外人を惡むの情は却て他地の民  
 より甚しきか如し土人妻を娶るの禮を重する此地を以て尤  
 も甚しとす凡婚儀を擧る中人尙千金を費すものあり此時に  
 當り采亭、采輿、吹簫、奏樂以て其乃祖乃父に論なく曾て某官に  
 任せしものあれば亦以て其銜を借り其禮を行ふ喪制も亦甚  
 九重し凡そ人死すれば一家男女被髮跣足麻衣を着して尸前  
 に匍匐し號哭の聲四壁を透す名けて倒禮と云ふ或は僧道を  
 請ひ或は尼巫を招く出棺は死後日を問する多少あり其遲き  
 ものは即ち禮の厚き者なり又風水の談に迷ひ長く葬らざる  
 者あり或は貧者風水の説を借て故に葬らざるものあり

船居の賤民は無教無學、禮義廉恥を知らず往昔英人北侵の際  
 雇ひし者は概ね此種の民なり其俗深く鬼神を信し病者あれ  
 は先つ巫を引て鬼神に祈り次ぎに醫を招くを常とす思ふに  
 水上住をなし河面業を勉む大風來れば即鬼を拜し急流に會  
 せは即又神を祈る其迷信蓋し故なきに非らざるなり以上を  
 此地風俗特異の一斑とす

廣東  
と香港  
の  
關係

香港の盛は以て衰を廣東に、與ふ是れ自然の勢なり蓋し香港  
 は無税の地たり輻湊の百貨素より查明を要せざるか故に凡  
 そ貨物清人に賣らんと欲する者あれば必しも廣東に至るを  
 要せざるとあり即在香港の清人之を買ひ隨意支那船に裝し  
 て私に諸港に入る者尠からず先に廣東總督之を患ひ香港大  
 守に商て同港出入の船舶を査んとを望しか大守之を肯せさ



るより兵船を出して海岸を巡回せしめ諸港に入るの船舶を  
 檢せしめたりしも遂に其奸弊を禁遏する能はず好し適々之  
 を查出するとあるも徒に巡回船吏の私囊を充たすに過ぎさ  
 りしを以て終に情を大政府に具申し清國領事館を香港に設  
 置し以て該地の清人を糾察せんを請ふに至り政府之を同  
 港大守に商りしも種々口實を籍りて遷延日を曠ふし近日に  
 至り僅に試設一年其領事の品行如何を鑒し然後將來を決定  
 すへし云々の回答あり知らず清國政府果して此回答に甘す  
 るや否や

貿易  
由來

廣東の貿易は其由て來ると久し千五百十六年葡萄牙人始め  
 て此地に來り貿易す第十世期の頃亞刺比亞の航海者廣東及  
 西方亞細亞の間に定期航海を開き和蘭人は葡人の來住後殆

と百年にして此地に來り其後英人蘭人に替り來る彼の東印  
 度商會は千六百八十四年支店を此地に設立し盛んに互市貿  
 易を行ふと殆ど百五十年是より俄然茶の輸出を増加し來れ  
 り然れども後清政府漸く之を嫌ひ課するに苛税を以てし土  
 商又英商と相客れず千八百三十四年に至り終に該會社通商  
 の特權を禁し尋て鴉片の戦争となり千八百四十一年廣東府  
 城英人の陷る所となり一たひ償金を得て此地を撤去せしか  
 幾もなく英人亦來り犯し漸く進て南京を攻掠す是に於て所  
 謂南京條約成り一千八百四十二年廣東の外四港を開ひて互  
 市場となし従前の苛税を廢せり然れ共凌轢尙止ます千八百  
 五十六年十月英將サー、ミチユール、スエイモール兵艦を將ひ  
 來る後二閱月土人暴奪を逞ふし悉く外館を焚燒す是に於て



千八百五十七年十二月英國の特派遠征軍の總督サー、トーマス、ストローペンビー氏は先づ廣東を攻畧し佛國亦之と連合し千八百六十一年十月に至るまで殆んど四年の久しき聯合軍の占領する所となり後ち償を出し和を講じ以て今日の状態に至れり

貿易 此地南京條約に因て更に四港を開きしより稍其壟斷の利を失へりと雖とも猶其貿易額毎年三千萬兩を下らす其千八百八十九年に於る價格は三千九百五十七萬三千百十七兩にして内外國産輸入千八百零八拾二萬八千三百九十一兩内國産輸入九百六十萬零五百零九兩輸出千八百七十九萬二千零五十二兩とす今其輸出入の重なる者を擧れば左の如し

外國産輸入

品名	數量	價額
生金巾	四五、九六九、反	八〇、五七三兩
晒金巾	九七、三四〇反	二五九、四二四兩
英國製棉紗	二、七二三担余	六八、四一七兩
印度製棉紗	七一、〇〇四担余	一、三八四、八九四兩
鉛塊	五二、四三九担八六	二二六、四二九兩
黃銅	三、八一〇担八四	五〇、四四〇兩
印度産線棉	四八、一八六担四八	五三四、〇三六兩
錫	四〇、三一八担三六	五二二、八二五兩
麥粉	五〇担一七	二六三、八五六兩
犀角	三、九二九担七一	一二七、五九〇兩
茸	三、九二九担七一	一二四、八二二兩
小麥	四一、一九九担余	六一、五三六兩

内國産輸入

品目	數量	價額
----	----	----



黑豆	一二八、五七三担余	二〇三、七〇八兩
綠豆	三五九、〇四一担余	五四九、一三〇兩
黃白豆	五二三、三八六担余	八一八、二三一兩
南京布	八、〇一〇担余	三四八、一六四兩
線棉	八、〇二五担八四	一一九、六三九兩
人參	四九八担五四	七六、六三八兩
上等高麗人參	四五三担六〇	九八、二〇九兩
鹿角	六、一九三對	三六四、九三三兩
藥材	五一、四六七担六五	四三五、五八四兩
麝香	六、三三〇兩	七二、三八六兩
豆油	三九、二四四担	二六九、〇〇四兩
米	一、八二九、〇一六担余	二、六八一、八五四兩
胡蔴	三八、五七〇担余	一二四、四〇三兩
生糸	四四〇担四九	一四二、九二三兩
諸絹布類	一、七〇三担四〇	一、一四二、八九二兩

烟葉	八、五四八担	五九、八八七兩
精製烟	六、八五一担	一一七、六一一兩
小麥	二五三、七八二担一〇	三七二、五五六兩

輸 出 品 目 數 量 價 額

眞鍮鈕	三、九〇一担九一	一二五、三〇七兩
絹衣	二八六担二六	二三二、四九六兩
鷄卵	九、五一七、一三〇箇	六八、二七九兩
ビロノ葉	四、〇四五、五八二個	五四、八六九兩
爆竹	五一、七七二担六〇	四七三、五四二兩
金器	三担二七	九二、四〇五兩
白銅	一二、〇五五担余	六四、二五八兩
乾荔枝	一四、四〇〇担余	五七、五八三兩
乾龍眼肉	一六、七六三担余	九一、〇七四兩
蓆	二二八、九二九束	六一九、七八六兩



上等紙	一一、三五四担	百七十六
銀器	三五担八九	一四六、一二一兩
精製烟葉	一三、六〇九担余	五九、四〇五兩
紅茶	七七、七五三担余	一三三、五二六兩
赤糖	一一三、三五九担余	一、〇一四、〇四一兩
生糸	一九、三八三担四七	三四三、三四二兩
黃生糸	二、八四九担〇五	六、三〇四、二六四兩
繭	四、〇八二担七七	二五二、四六一兩
屑絲	一二、六八六担九一	三三八、七七三兩
諸絹布	七、二五八担一四	九〇九、一二五兩
真綿	一一一担三三	三、四五五、四九八兩
絹絲	二一五担七二	五四、三〇二兩
絹物雜類	三三四担一五	七八、三〇〇兩
絹紐締	三八一担五〇	一五一、一二〇兩
		二〇三、八〇五兩

福州

位置  
人口

福州は福建省の首府にして東海岸閩江口を溯る百十五里閩河の北邊に在り北緯二十六度二分二十四秒東經百十九度廿分に位置し人口六十三萬餘西重山を阻し東滄溟を帶ひ南廣交を望み北淮浙を睨み東南一葦帶水遼として台灣に對す實に邊徼の重地東南の一都會なり近年に至ては造船場あり諸種製造場あり地形の便位置の要、天然稀有の良港にして亦最も緊切なる軍港と稱すへし

地理

此地の地勢たる東北西の三面山嶽連亘し南一帶閩江に臨み南北四里東西三里なる大廣谷を成す閩江を溯れば遠く内部に通すへく洄れは直に海に連て諸港に達すへく運輸交通亦以て便なりと云ふへし

城市  
衙門

此地周の七閩地唐の時長樂府明初福州府となし清朝之を襲



ふ治下縣九あり閩候官古田、閩清、長樂、連江、羅源、永福、福清とす。府周繞すに城牆を以てし全長三里壁の上部及裏面共に瓦石を疊み牆高大約三間半厚サ二間半城門七個を開く東西南北の四門、及湯門、井樓門、水刀門、是れなり城内は官衙、商市店、混淆して家屋稠密門外亦市街あり其最も大なるものは南門外にして南台と曰ふ本城より南に延ひ連續殆んど二里の間商估頗る隆盛なり又城内には總督衙門あり福建、浙江、兩省を統轄する總督之に駐劄し巡撫、布政使、按察使及鹽局、糧食局等の諸衙あり其他中軍副將の營及知府知縣の廳あり而して知府知縣は城の内外を分轄す市街は道路陝隘にして甚不潔なり城内三小丘あり草木蔚然たり而して其衙署附近の地は樹木繁茂し市街の景色風致頗る佳なり府城の東門に近き所に溫泉

場あり土人の浴客常に多く能く皮膚病を癒し其効著しと云へり此地の土人は種々の紀念碑、高塔及器皿の製造に巧にして人造花卉及禽鳥の彫刻に至る迄頗る其長所なりとす

## 中洲

南台本衙と南台島の中間閩江中に一小島あり中洲と曰ふ人家稠密商賈繁盛なり長橋を架して南台本街に接す之を萬世橋或は大橋と云ふ其長さ二百二十五間幅二間許にして石を以て數十の支柱を設け其上部に長き花岡石を排列せり又南台島に通する石橋あり長百三十三間其製大橋に同じ此外上流二里許の地に著名の石橋洪山橋あり其長百八十四間其製亦前に同じ

## 外國人居留地

外國人居留地は即ち萬世橋の南岸に在り居留者凡百戸許り英米魯獨以多利の領事館あり



馬尾碇泊所

南台島の東端より下流數丁閩江屈折して東北に流る此屈曲點近傍を即ち馬尾の碇泊所となす大船は皆此處に繋る蓋し是より上流は河幅狹小江流淺くして大船巨舶を容るへからす而して近年に至り更に其河幅を縮小せり

馬尾市の街諸衙門

馬尾街は北岸にあり其后方は閩安鎮より鼓山の後方に連續する山脉の支流來り江に對して突出し以て市街を包括す其形恰も馬蹄の如し蹄内東南に偏する所に造船所あり船政局と曰ふ局の前面には衙署及び學校を設く又其後方の丘上に兵營及火藥庫あり市街は船政局の兩側に在り戸數大約五六百にして商賈櫓を連ぬ船政局の東側に電信局あり其對岸には税關あり電線は南台に通し線の長さ五里餘官設とす

船政局

船政局は海軍造船所にして東西大約百二十間南北二百八十

間構内十數個の工廠を設く多くは煉瓦造りにして間々又木造あり一般の構造美ならずと雖も器械の設置能く整頓し諸般の船具を製造す該局は同治元年の創建にして製造せし所の軍艦及運送船は己に二十餘隻の多きに至れり千八百八十四年八月二十三日及四日に於て佛艦の砲撃する所となり殆んど半は破壊したりと雖も其の後ち之を修繕し今や亦舊態に復せり

鼓山及羅星塔

鼓山は府城と馬尾との中間に聳ゆる山嶽にして山頂の高さ海面を抜くと千米突山勢頗る雄偉其中腹に大寺院あり湧泉寺と曰ふ羅星塔は馬尾の東南に當り南北に狭く東西に長さ一小島なり其西端に一岡阜あり高さ二十米突頂上に七層の石塔を設く市街は其南麓に在り戸數三百餘商賈頗る多し



家屋の構造  
候氣

此地家屋の構築は官私共木造を多しとす高閣層樓甚た稀なり唯居留地即ち南台に於ては煉瓦及び石造の家多し氣候は常に濕氣を帶ひ香港に比すれば夏季は熱く冬時は寒し氷雪及び霧の如きは之を見る甚た稀なり近傍景色殊に秀美にして其閩江を溯りて金牌に至る殆んど半里左右を顧れば禿山重疊怪崑異石頗る奇觀を呈す更に進んで閩安峽に至れば河幅亦狹隘巉崑嵯峨として江水洶々砲台の設あり其景色宛然畫くか如く眺望頗る掬すへし

貿易  
由來

沿革は此地古より有名なるポピヤ茶を産出すると甚た夥しきを以て夙に外人の注目する所となれり且其土商等未だ通商の爲め公開されるときに方り窈かに奇利を博せんと欲し多數の時日と種々の困難とを顧みず陸路之を廣東に運送

し以て私かに輸出したりと云ふ千八百三十年に至り東印度會社の此地を以て互市場たらしめんとを請ひしも未だ確乎たる要領を得る能はさりしか一千八百四十二年清英の和議成るに及び此港も亦通商の地となるに至れり其初年に當ては貿易の景況微々として振はず閩江の航路は困難にして輸入物貨は銷費するの市場なく加之土民の外人を嫌忌する甚しく外人をして數年の間往來貿易することを得ざらしめたりしか日を経年を重ね人漸く其道を親み數年の後茶の輸出漸く盛なるに至り爾來商勢大に其面目を改め貿易の額年に増加し今や支那帝國中尤も盛なる茶貿易港の一となるに至れり

貿易 本港の商賈は勤儉にして能く業を勉め其貿易額甚た大なり



千八百八十五年より同八十七年迄を平均し毎年輸入六百零六萬九千三百圓輸出高一千四百二十八萬八千八百圓とし茶を以て其大宗とす今其平均一年内十萬兩以上の重要なる輸出入物品を擧ぐれば左の如し

輸 入		輸 出	
品 目	價 格	品 目	價 格
阿片類	二四五二五 <sup>兩</sup>	茶類	一二九六一五 <sup>兩</sup>
綿布類	一一二一二九	子實穀物類	一六三二
毛織物類	三七五九	飲食物類	三四二三
地金類	七〇三一	動植物及粗材類	二五九七
藥種染料類	一五〇八	雜貨類	五〇一〇
粗材類	一六八〇		
雜貨類	五二八三		
海產物類	三四九二		

又本港輸出の全体は殆んど茶を以て蔽ふと言ふも可なり然れども六七年来大に其額を減したり千八百八十九年に於ける輸出の總額は七百十七萬九百三十四兩にして内茶の價格を六百十四萬七千零十三兩とす即ち左の如し

紅茶	四五七八九五担	五、九七七、六九〇兩
綠茶	一五三担	二、四九一兩
番茶	三四六担	一、三九五兩
再焙茶	九九二担	一、六五五二兩
磚茶	四二、〇三七担	一、四八、八八五兩

茶の輸出夫れ斯の如し其價格亦少しとなさす然るに近年其需用地たる英國及壕州并に米國加奈陀の如き漸く印度錫蘭の産茶を愛して福州産の輸入歳に減少するの傾きあり英京倫敦の輸入茶を以て之を見るも其支那工夫茶は千八百八十



六年、九千八百一十一萬六千四百六十四磅なりしも同八十九年には漸次減して五千八百十六萬千五百一十一磅となり印度産は同八十六年五千四百六十六萬六千八百六十四磅なりしも同八十九年には漸次増して八千五十萬九千九百九十五磅となり又錫蘭産は同八十六年五百二十萬七千二百九十磅なりしも同八十九年には増加して二千六百零九萬九千八百四十四磅となり以て三處消長の如何を見るへし現に本年の如き福州茶商は三百萬圓の損失あり未だ其趨勢を回復するの方策を得ず是れ福州茶商の目下憂慮しつゝある形勢なり

### 寧波

位置  
人口  
地理

寧波は浙江省に屬し甬江に瀕し海口を溯ると凡そ十一里の處にあり我國通商港の一にして長崎を距る二百九十六里上

海を距る五十四里にあり北緯二十九度四十九分東經一百一十一度三十五分に位し水陸運輸の便を占め百貨輻輳戶口殷實省内樞鑰の一大都府にして人口二十六萬を有す其地會稽の東に據りて溟渤を抱負し山を枕とし江を臂とし重阜崇嶺連亘數百里浙東の門戶東南の要會なり此地富盛の淵源は則甬江にして一に寧波江又は大浹江と曰ひ城下の傍を流る江幅凡五町其深さ大抵二尋乃至五尋にして吃水十七尺の船舶は四季共に進行し得るのみならず大小の枝流白布を翻すか如く其内部の地方より年々四千餘艘の小船往來して貨物の出入絶るとなく又上海間の往來は朝夕二回の郵氣船あり此の府は春秋の楚の地明初明州府と曰ひ後改めて寧波府と名く現治下縣六あり曰く鄞縣慈谿縣奉化縣鎮海縣象山縣定

治縣  
城市



海縣とす周圍五英里半繞らすに墻壁を以てし築くに磚瓦を以てす高さ二十五英尺頂上厚さ十五英尺基礎二十二英尺六門を穿ちて城内に通す城壕あり北門に起り殆んど三英里の間城壁に沿ふて走り橋門と稱する城門に至て止む城外は四方皆廣漠たる平地にして川流其間に流れ郊景尤も佳なり彼の安部仲實か三笠山の歌を詠せしは即ち此處なり城内は街衢商塵連檐櫛比し市街處々に寺院高塔の頗る壯麗なる者あり市街の清潔なる國中に冠たり此地又有名なる書籍館あり其書史の多きと支那帝國中第四に位するを以て其名著し蓋し南門の傍なる一家族の所有に係はれりと云ふ

## 風俗物産

當地の富商多くは船舶を所有し濤を驅り風に駕し常に自國要港及び日本の如きは勿論遠く暹羅印度地方に貿易を爲す

黠智に富み奇贏に長し其事を爲す快速にして活潑なる他清人の比にあらざるなり此地製造の重要なものにあつては其絹布並に造船の事業尤盛大にして魚鹽の製造亦尠からず近傍紹興府に釀酒あり紹興酒と名く本府より國內各所に輸送するもの實に夥し又此地は藍染に有名なるを以て臺灣より常に水藍の輸入あり是れ曩に本邦より朝陽館藍輸出の道を開かんと試みし所以なり

兵要 此府古來兵馬の事ある毎に其衝に當る元明の代尤も甚しく加ふるに海寇の害毒を以てせり江端鎮海縣城を築き江岸砲台を設け以て江口の防禦に供す蓋し其地の最も樞要なるに由る殊に舟山島は僅に一葦帶水の地にあり往年咸豐の役英佛連合軍の取て以て臨時根據の地と爲せしより以來益内外



人の注目する所となれり

貿易沿革

此府の通商互市場となりたるは一千八百四十二年なれども外人の此地に來り貿易せしは遠く數百年前の古にあり一千五百廿二年葡萄牙人の此地に來り貿易を始めし以來住するもの年々増加し遂に居留地を開設するに至り貿易頗る盛大に赴けり然とも葡人漸く跋扈し其土人に對する殘酷無法なる所業多きより遂に政府の忌斥する所となり一千五百四十二年浙江總督より令を出し葡人の居留地を破壊し居留人を鑿殺せしむ兵士等令を奉し踴躍直に之を殘滅し一千二百人の葡人中其八百人を殺戮せり是より後絶へて貿易を試んとするものなかりし降て十七世紀の末に至り東印度會社の此府を距ると四十英里なる舟山島に一小貿易地を開設せしも

後數年好結果を得ずして撤去せり爾來亦外人の此地を顧みるものなかりしに一千八百三十九年(我天保十年)に至り英清鴉片の事あるや英國艦隊は廣東より進んで此地を占畧し一千八百四十二年支那兵此地を回復せんとを謀りしも英兵撃つて之を退く後英軍此地を退き同年八月平和の局を結ふに及んで此港を開ひて通商互市の場となせり

現時貿易

本港貿易の現況たる上海に近接するを以て輸出物品甚大ならず一千八百八十九年に於ける外國品純輸入(再輸出を除きたるもの)總額は五百六十九萬七千三百七十七兩にして内鴉片五千九百三十二担之を前年に比すれば其減すると一百八担棉及毛織物類は之を上年に比すれば僅に三分下落せり石油は從來奢侈品として上流の人之を用ゆるのみなりしも近年



大に其需用を増加し就中魯國産は其價廉なるを以て頗る人望に適へり摺附木も又近年大に其需用を増加せり日本製の如きは之を瑞典及日耳曼製に比すれば平均二割乃至三割廉なるを以て銷路甚た好し今輸入外國品の重なるものを擧ぐれば左の如し

品目	數量	價額
生金巾	三九八、七七六反	七一七、七九七兩
晒金巾	三、七、八〇〇反	七一、八二〇兩
天笠布 <small>大巾 中巾 小巾</small>	一四三、五三四反	二〇六、二四五兩
釘鉄	三〇、三四七反六〇	九一、〇四三兩
錫飯	二五、五三三反六三	六五六、二一二兩
鉛塊	一一、一五一反余	七〇、三七八兩
石油	一、八二四、三四〇瓦倫	二五三、五二三兩
白糖	三一、八七〇反余	一二四、三七四兩

又同年内國産輸入の總價額は一百七十九萬八千九百四十二兩にして今其輸入の純價額二萬兩以上のもを擧ぐれば左の如し

品目	數量	價額
チヤナ、ルート	二、二〇六担九九	二四、二七六兩
團扇	三、七四五、五九九個	三四、六二二兩
フアングス	二、六七三担二〇	六三、三五五兩
蔴	一〇、五四五担八二	七六、四六九兩
乾荔枝	四、七七八担六六	二九、二七八兩
龍眼肉	七、三三三担余	四八、四〇三兩
藥材		三二七、一二八兩
絹織物	六三担五一	三九、三七七兩
砂糖	二六、九一〇担余	一一四、四二九兩

外國品の更に此港より内地に輸送するの地方へ紹興、金華、衢



州、嚴州、處州及び安徽省の徽州、江西の廣西等にして其最も多く消費するの貨物を金巾類、天笠布、雲齊粗布、天鷲絨、英國羽紗、吳呂中等羅紗、ラストル、其他毛布類、釘鐵、鉛塊、窓硝子摺附木、石油紙、藤、蘇木、日本昆布、赤糖、白糖等なり。本港輸出及再輸出の總價額は五百廿六萬六千二百五十八兩にして、重に支那各港に輸出するものとす。其最も重なるものは茶にして、同年十五萬八千四百七十六担を輸出せり。就中綠茶を以て其大宗とす。今本港輸出品額五萬兩以上のものを左に掲ぐ

品目	數量	價額
綿花	一五、六二四担八四	一六四、〇六〇兩
錫	二九、五七八担余	二二一、八四一兩
團扇	二、一七六、七八三個	九一、六七七兩
蓆	一、一九九、五七五個	八三、九七二兩

藥材

絹織物

二八〇担七五  
一七四、〇七〇兩

綠茶

一五七、一六九担余  
三、六八三、三四二兩

千八百八十九年に於ける本港の貿易總價格は一千二百六十七萬四千四十兩にして之を上年に比すれば四十八萬四千七百八十五兩を減せり

重慶

位置

重慶は四川省重慶府廳の在る處にして清人之を渝州或は固陵と稱す。上海を溯る千二百十五英里、漢口の上游四百六十五英里、嘉陵江の楊子江に會する處にあり。北緯二十九度三十三分、五十妙東經百七度二分に位置す。人口五十餘萬、物貨輻湊、運輸至便、漢口と相須つて將來益多望の一大互市場とす。

地勢

其地勢たる山脈の東するものは三峽となり、西南するものは



雲貴の境となり西北は岷々として遠く劍門龍泉の諸山に連り又嘉陵江は北より到り岷江へ西より來り共に府城の東に於て會流し以て東三峽に注く所謂山川の會を扼し夔門の上流を扣へ雲貴の形勝を占め成都保寧の肘腋に當り長江數千里の利に依り又遙に吳楚の上游に據る地勢剛險蓋し全蜀の咽喉たり而して北に嘉陵江あり南に大江あり三面皆江に圍まれ殆んど瓢子の形を爲せり

城市  
通路

此地周の巴子國の地明始めて重慶府となし清之を襲ふ治下州三あり曰く合州忠州涪州縣十七あり曰く巴江津長壽大足永川安居榮昌綦江南川黔江銅梁定遠璧山鄧都墊江武隆彭水縣とす巴縣は即ち府城の地なり府周繞すに城牆を以てし東西五里南北四里にして九門を開く内七門は水路に通し二門

は陸路に達す城内人家稠密百貨豐阜中央より一岡高く起り西門に至て盡く人家其上に連る是を樑子と稱す之を要するに城地西に高く東に低し故に城東の江上より之を望めは城内の人家は一目の中にあり府廳は金紫門池魚市口に縣廳は其東なる信豐街にあり又練兵場は樑子の西極にあり平常假小屋を以て填塞し甚た熱鬧なる市場なれども事あるときは直に小屋を取除け練兵場となす市街繁昌の區は城内大江に沿ふたる一帶の地方にして大小各衙門も亦此地にあり市街の幅は廣きも一丈に過ぎず狭きハ五六尺なるもの多し其通路は南は大江を渡り綦江南川の二路より貴州に通し北は水陸共に保寧潼川等の地に至るへく西は西門及南紀門を出て佛圖關より成都に通するの官道あり路幅六尺石を布き高低



甚し又大江より水路瀘州叙州等に至るへし東は嘉陵江を渡り葛縣綏定等に通する大道あり亦路幅六尺石を布き高低甚し北保寧潼川の一路は未だ詳かならされども南貴州に至るの路は山路峻險と稱す亦石を布き路幅五尺之を要するに四方各路共に車運の便なく水運と人馬との力に依る江北廳へ東南に大江を繞らし西は嘉陵江を隔て、重慶城に對し其距離僅に七丁に過ぎす北は連山重疊遠く連り廳城は山頂より江岸に綿亘し殆んど圓形をなし直經一里半に過ぎす人家稠密物貨頗豐盛にして人口二萬余東西二門城外は人家江に沿ふて遠く連れり

開港  
由來

此都府は四通五達の衢に居り水陸交衝の便を占め百貨雲集庶民殷富所謂沃野千里天府の富皆此港に輻湊し時に投し勢

に依り之を四方各省に分輸す其天然の位置より見るも他日一大貿易港に至るを知るに足るなり向きに英國政府芝罘條約に依り四川貿易研究の爲め理事官を重慶に駐劄し又瀛船の内地に達するの曉には直に開港して英商の同地に住居し及倉庫を建設するの約を訂し爾來理事官をして貿易を研究せしめたるも宜昌重慶間は航路甚だ困難なるを以て其瀛船航路を企つるものなかりしか一千八百六年英商リトル氏米國ミスシッピー河用の瀛船に則どり一種の瀛船を倫敦に製造し之を固陵と名け宜昌重慶の航路を開かんと欲するに至り清國政府は沿道船戸の業を失ふて事端を滋生せんを憂ひ英國政府は芝罘條約を主張し其談判頗る困難なりしか昨年八月遂に兩國商量整ひ其支那人の瀛船を運用し得るに至る



迄は英商等も亦汽船を通せざるとなし本年一月同府を開  
ひて貿易場となすに至れり

貿易 此地の貿易は開港日尙淺か故に其全豹の詳細を評論するに  
由なし唯國産の同地に輸入する海産物を以て最大額とする  
か故に茲に今其宜昌府税關を過通せる三ヶ年間の比較を舉  
げて其景況の一斑を見るに費せんどす

二十年 十九年 十八年

昆布	四七五四七五七	四三七七四五二	三五二〇〇八八 <sub>斤</sub>
鱒	五二一五一一	五五〇〇一八	四二三五八二
塞天	二六二六六六	二八三九二二	一七九、一一八
乾海老	五三、七五三	五六、六八九	五九六二七
海參黑白	一一、五一一	一三〇、七九六	六九、三三三
鱧	一三五、〇一三	一一二、五〇七	二八、一三八

乾貝	九、一二九	一四、二〇三	五八、一九
乾蛤	三五五	一、二八一	三九、一二

### 九江

位置  
人口  
地理  
地勢

九江は江西省に屬し揚子江の右岸に瀕し上海を距る上流四  
百五十二海里漢口より下流百八十七海里にあり北緯廿九度  
五十二分東經百十六度零八分に位置す人口約五萬三千江西  
の鎖鑰にして全省の形勢茲に繋かる揚子江上第三繫盛の開  
港場たり其地勢北長江に瀕し西南南門湖に臨み南四里廬山  
に面し下流十七海里鄱陽湖口に至る西傍に湓浦港あり水頗  
る深し民船茲に碇泊す東西五里女兒港あり其水廬山より出  
て鄱陽湖に入る湖水漲る時は船百餘艘を容る九江の位置た  
る江西全省水陸の衝を攬ると云ふへし



城市民物

此地春秋の時楚吳に屬す明の始九江府を置き清之を襲ふ其治下五縣あり德化、德安、瑞昌、湖口、彭澤、是れなり府城は江に瀕し丘に沈み稍菱形をなす全周二里半墻高十五尺あり六門を開き城内知府、知縣、城守營、道台、衙門あり市街は往昔頗る盛壯なりしも向きに長髮賊の亂其焚掠する所となり今は寂寥たる一貧都に過ぎず其大街の一條東西に亘りて城の二門に通ず周圍は概ね遺址荒園のみ然れども開港貿易以來戸數漸次増加するを見る城内の居民は農戸多く又船手は其三分の一に居る其氣候は五月より六月に至る雨多く一月より二月に至る屢降雪あるも嵩むと多からず春冬北風多く夏秋南風多し暑氣は七月初旬八十度より漸次八月初に至る迄其度を増す夏候臭虫及蚊虫甚た多し其飲水は井水及河水を混用す

居留地

居留地は城市の西方に位置す江岸に沿ひ郭外市街の西端より起り龍芥河口の邊に至る面積約方二百五十間とす此地に住する外國人三十名許に過ぎず領事館ハ獨り英國あるのみ其餘の洋館は皆商社教堂とす

貿易

始め英國の此港を開きしは其目的内地通信の便を占むると江西及安徽省中の所産なる綠茶貿易の利を博せんと欲するにあり而して清國政府も亦大に望を通商の繁盛に置きしか位置鄱陽湖口の稍上流に在るを以て其豫期の企望を満足せられさりし何となれば江西の物産は皆先づ鄱陽湖に由り湖口より此地に達するには支那製の船を以て五十清里の急流を遡らざるを得ずして輸出商賣上妨害を與ふる尠からされはなり然れども若し小蒸瀛船を以て此間を往來せしめは直



に其不便を免るへしと雖とも惜むらくは支那政府の未だ此舉あらざるを其不便の斯の如くなるにも拘はらす所謂茶時に際すれば遠近の茶悉く屬まり來り出入の船舶旁午織るか如く舳艫相啣み港内茶舶を以て滿す長江往復の汽船の如き其溯行のものは多く他の貨物を貪らす疾く九江に至て茶を滿載し得意揚々として漢口に向ふ其景况蓋し亦快觀なり此地の近傍特に産物の豐盛なる商要地なし唯汎く鄱陽湖沿岸一帯の地を以て目途とするのみ而して諸方より此港に輻輳する貨物中其重なるものは茶にして輸出品の首魁なり其他紙麻麻布及煙草等あり毎年の輸出額孰れも十萬兩に下らず一千八百八十九年に於ける茶の輸出總額四百三十九萬四千六百八十一兩内磚茶は三萬千四百七担にして其價二十一萬

九千八百五十兩なり此地磚茶製造所二あり共に魯人の所有に係れり當地無業の小民は皆之に憑て生計を營めり今左に一千八百八十四年より同八十九年に至る六ヶ年間の輸出高を掲げ以て茶勢の如何を示さん

千八百八十四年	一九、一〇八担	千八百八十七年	三五八二担
同	八十五年	一九、七四六担	同
同	八十六年	三四、七九三担	同
同	八十七年	三四、七九三担	同
同	八十八年	四九、二七二担	同
同	八十九年	三一、四〇七担	同

此の如く一千八百八十九年磚茶製造所輸出を減せしものは該時魯國市場磚茶の多く充寒したるものあるによれり而して茶末は五千二百七担を輸出したるも猶同年磚茶の不利を償ふ能はざりし又清人の製茶に就てハ今を距ると數年前政府其輸出の漸く減して茶税の減少するを憂ひ製茶輸出税



を減して大に輸出を奨励せんとせしか今に至て尙其實行を見ず意ふに政府をして法を設け粉茶及硬茶をして盡く之を磚茶に製せしめ以て其銷路を敏ならしめは第一外國人の清國好茶なきの譏を免るべく第二に無業小民をして業に就くを得せしめて且つ税項を傷はず第三には清國の茶外國市場に大なる勢力を得て獨り魯人をして其利を壟斷する能はざらしむるに至るへし然る時は其獲る所の利都て其減税輸出の奨励に勝る者あらん乎又同年紙扇類は六十三萬三千把を輸出し烟草又輸出額を増加せり此地有名なる景德鎮の磁器産出の地にして其製出する磁器を四方内地へ運出すると其數實に夥しく且海外へも多少輸出する者あり輸入の主なるものは棉布類鴉片絨色布類及地金類等なり洋布は千八百八十九年の輸出額十九萬二千疋に上り米國産粗布も亦四萬一千疋を輸入せり其他各種の洋布羽毛銅鐵類等より諸雜貨の輸入に至る迄年々尅昇の勢あり本港に於ける昨廿三年の總輸入價格は一千百四十二萬八千二百十八兩にして前年より増加すると三十七萬七千九百八十兩なり

### 蕪湖

位置  
人口  
地勢

蕪湖は安徽省大平府に屬し揚子江の右畔に瀕し上海を溯る三百四十英里鎮江の上流百十里にあり北緯三十一度十八分東經百十八度二十一分に位置す人口七萬八千此地頗る要衝に屬す劉玄德の所謂江東の形勢先に建業あり次に蕪湖あり是れなり西南一里戰鳥山あり東北一里赭山あり西方一里大江を控ゆ其港灣は寬に弧形をなし風平に波靜に頗る良港た



り川流二條あり南五十英里寧國府に通す減水の時と雖とも五尺乃至六尺に下らず夏季に至れば十尺乃至十二尺に至り運輸交通頗る便なり他の一は西南八英里産茶地なる大平縣に達す水淺くして夏時大船を浮ふを得るに過すと雖も其の五十英里にある養蠶地南陵涇縣に通するを以て其用亦決して輕からず而して夏時増水の時ハ二百乃至三百担積船は之を行ると容易なりとす

城市 此地春秋の時吳の地たり其要衝に當るの故を以て爾來戰亂を経る甚多し百貨殷實商旅駢集稅關あり衙門あり連檐櫛比生意甚た盛なり市街は他の内地市街に比すれば廣濶にして家屋の結構道路の鋪石等皆甚た粗陋ならざるを見る

貿易 千八百八十九年に於る外國貿易の總價額は七百三十二萬四

千四百六十八兩にして其の前年より増加すると、一百七十八萬二千三百十兩内外國産輸入は總計二百六十六萬三千八百十三兩にして之を分類すれば外國産鴉片百二十五萬五千八百五十兩之を前年に比すれば殆んど四分の一を減す是れ内國産鴉片日に供給を増加し價廉にして品質亦美なるに因る洋布類ハ逐年其銷費額を増加し來り同年三十一萬千六百反を輸入し之を上年に比すれば七萬千八百九反を増加し絨毛布類是れ亦漸く勢を得るの傾ありて同年輸入額一萬七千九百六十五反之を上年に比すれば殆ど二分の一を増し金屬類の輸入は六萬七千七百三十八兩にして之を前年に比すれば四萬餘兩を増加し雜貨類は尤好景況を呈し總輸入額六十五萬四千六百六十五兩之を上年に比すれば増加すると十六萬餘



兩なりとす今外國産輸入品中重なるもの、數量を擧ぐれば左の如し

品目	數量	價額
鴉片	二、四九二担九六	一、二五五、〇八五兩
生金巾	一一六、四八二反	二四四、九〇四兩
晒金巾	二五、四四二反	五四、九六九兩
天竺布	二〇、四七〇反	二五、九六二兩
英國粗布	七一、二三六反	一五六、〇七二兩
毛布類		
英國羽紗	四、〇五二反	三七、九〇二兩
羅世伊多	八、三一〇反	四〇、二八三兩
大小羅紗	七八四反	一三、八六〇兩
金屬類		
釘類	七、七九五担六一	一八、九〇八兩

錫板	九八二担四四	二五、七二〇兩
鉛塊	一、四三四担七六	六、二九五兩
雜貨		
蓆袋藁袋	二、九〇八、二九七担	一〇五、二〇一兩
赤糖	三〇、五八九担一九	九三、九六〇兩
白糖	二三、五一四担五八	九八、八六四兩
蘇木	一〇、五二二担三七	六七、九一五兩
石油米國産	三四、〇八〇加倫	四三、六五八兩
石油魯國産	二〇七、二一〇加倫	二四、六八七兩
摺附木	一〇一、三〇〇箱	二一、三三三兩

内國産輸入も亦同年大に好景を呈し其の總額百二十三萬千九百六十兩にして之を上年に比すれば三割三分を増加せり其の重なるものを擧れば左の如し

品目	數量	價額
南京布	八、三二八担一六	三二二、四二二兩



二百十二

赤糖

一、〇八九担三二

八五、八四三兩

白糖

二八、〇〇五担七一

二四三、五一〇兩

桐油

一七、一二七担余

八八、一二一兩

絹紐綿

三七担〇七

二七、三〇四兩

又顧みて同年内國産輸出を査するに其總價額三百四十二萬九千三百廿一兩にして之を前年に比すれば百四十二萬九千四百十八兩即ち七割一分を増加せり其斯の如く俄然貿易の繁昌を進めたるハ首として寧國府虚洲府等稀有の豐作にして米の輸出二百二十七萬四千二百十四兩の多きに及ひたるに因る蓋し此の米たる多くは廣東に運出するものにして同年運出の米船前後合て五十二艘其數量百三十七萬二千五百四十二担其餘多は上海に運出せり又絲貨は米に次く重なる輸出品にして其同年中輸出せしもの六十七萬八千五百四十

二兩之を上年に比すれば一割一分を増加し棉花も亦同年好景にて一萬二百六十二担を輸出し内六千七百十担ハ漢口に輸送し其の餘は九江に送れり石炭は日に益供給額を増加するの勢あり將來或は蕪湖輸出物の大宗たるに至るを圖るへからず現にカータン地方に於る礦山は其器械及採掘方共一切之を洋式に法り孜孜として採掘に従事せり其同年輸出せしもの九千二百七十六噸にして之を上年に比すれば二千噸を増加せり今年本港輸出の重なる者を擧れば左の如し

品目	數量	價格
米	二、一二七、〇九七担六六	二、二七四、二一四兩
白生糸	二七三担六〇	六一、九六四兩
綢緞	一、二二七担二五	五八七、七八三兩
線綿	一〇、二六二担六〇	八三、五四七兩



鵝鴨毛	八、五六三担余	五八、二九七兩
上等紙	一、八二三担八四	五一、六九四兩
豆	三六、九五九担三三	三七、五五三兩
石炭	九、二七六担	二八、九四四兩
藥材	七七五担五九	三一、〇〇七兩
絹屑絲	一四八、三八〇箱	二二、六〇四兩
山羊皮	四〇、四〇〇担〇五	二〇、七四九兩
麥		二三、四一一兩

此の外内地開港場外へ輸送の價格ハ四十六萬三千一百九十  
九兩とす

鎮江

鎮江は江蘇省に屬し長江の右岸に瀕し上海を距る二百三十  
英里にあり我國通商港の一たり北緯三拾二度十分東經百十  
九度二十九分に位置し人口凡そ十三萬五千運河の管鍵を持

して南京の門戸を扼し所謂三吳の襟帶百越舟車の會古來著  
名の樞地たり連岡三面を擁し岡端一小島と接連す此島江中  
に跨り出て奇景頗る掬す可し此處江身一清里餘流れ急に且  
つ深し江中右岸に近く一の小島あり長さ四十丈四圍茂林あ  
り林中に數多の佛閣あり船此島と右岸との間を航過す其深  
さ河岸を隔る三百「ヤード」の所二十七尋に及ふ其水暗礁に激  
して常に盤渦を成せり又此地楊子江に接し及ひ運河の要扼  
を占るを以て縱横水運の便を有し且つ岸傍到處大船巨舶を  
投錨し得るを以て眞に良好の互市場たり

治縣  
城市

此地春秋の時吳の地に屬し明初江淮府と曰ひ尋て鎮江府と  
改む清朝之を襲ふ治下縣三あり曰く丹徒、丹陽、金壇とす府は  
運河口と楊子江右岸の間に横はり周圍繞すに城壁を以てす



市街ハ平坦にして丘陵及び江水に纏はれ風景甚だ佳なり加  
るに前に峭壁巉然たる焦山島ありて更に一層の眺望を添へ  
たり此府素と繁華の都府なりしか長毛賊の亂極めて其慘毒  
に罹り爾來商業萎靡振はず現今に至りても猶曩時の繁榮を  
恢復する能はざるなり此港の對岸瓜洲邑あり鹽船の輻輳す  
る所なり此所に於て鹽を他船に移し以て内部に運輸する爲  
め千八百隻の支那船を備へ舟夫常に三萬人ありと云ふ

居留地

外人の居留地は運河より揚子江に沿ふて一帶の地を領す之  
を西銀山と云ふ此地丘陵に接して全地平坦なり分て十八區  
とし一區を三萬五千平方尺とす而して江と平行したる大道  
を以て十八區を中分せり又南岸に近き處江流急にして土船  
安穩に投錨せしむる能はざるを以て瀛船は居留地碼頭に停

貿易由來

泊するを得ると雖も土船は大抵隣地及左岸に停泊し居れり  
千八百四十二年七月英國の將官ソルヒューカ氏の劇戰此府  
を掠奪するや支那政府は大に驚き遽かに和約を締結し此地  
を開て互市場となせり蓋し此地ハ南部諸省より運河を経て  
其貢税を此京に輸送する要衝たればなり所謂南京條約是な  
り其の後ち千八百五十三年四月に至り此府再ひ長毛賊の掠  
略を被り全府大に其破壊する所となり亂平くる後僅かに二  
三の公廨及び大街の商家稍舊に復するあるも其の餘は概ね  
尙ほ舊榻を整ふる能はず

貿易

本港は最初開港の當時に於ては水深くして大船巨舶容易に  
江岸に達するを得加之上下左右舟楫運輸の便なるを以て其  
位置自から將來内地貿易の發達を促かし必ず他日商業上篤



一の要港たらんと想定せしもの多く一時繁盛を極めたりし  
 も漢口の開港以來其商權忽ち開港に移り目今は只上海漢口  
 間諸船の少時間寄泊して近傍の需用供給を取次に過ぎさる  
 なり千八百八十九年に於ける本港貿易の總價額は一千二百  
 三十五萬一千二百七十八兩にして内六百六十四萬九千零八  
 十九兩を外國品輸入四百卅三萬七千五百六十九兩を外國産  
 輸入とし一百四十二萬四千四百四十二兩を初再總ての輸出  
 額とす其重なる貨物を擧ぐれば左の如し

外國産輸入の部

品名	數量	價格
マルワ鴉片	二、九五八担	一、四四九、四二〇兩
生金巾	八二三、七七一反	一、三二七、九四七兩

晒金巾	一〇一、一四七反	二四二、七五二兩
天竺布	九二、二二五反	一一〇、六七〇兩
英國雲齊布	三七、七四〇反	六〇、三八四兩
米國雲齊布	二二、一二一反	六一、九三九兩
英國粗布	四二、五七三反	九三、六六一兩
棉ラステング	三〇、四六七反	七三、〇一九兩
スバニシストライプ	六、〇七八反	五四、七〇二兩
鉛塊	一三、〇五三担	五二、二二三兩
銅鐵	三、一九四担	六三、八九六兩
黒海參	二、一二九担	八一、七四四兩
摺附木	二四八、七六〇箱	六三、五二六兩
米國産石油	一、三五一、八〇〇ガロン	一七二、一九九兩
魯國産石油	五三〇、〇〇〇ガロン	六四、七二三兩
黒胡椒	四、一一三担余	五三、四七五兩
白糖	一〇六、九五四担九九	五三四、七七六兩



赤糖

一九一、一〇〇担八〇

二百二十  
五七三、三〇二兩

内國産輸入の部

豆

二二一、五六九担余

二二一、五六九兩

石炭

一〇、〇四二噸

五〇、二一〇兩

フアニガス

二、二八九担余

五九、〇〇〇兩

クラスクロース

二、八五四担余

八五、六四一兩

麻

一三、五四九担余

五四、一九八兩

ウード油

一五一、三三〇担余

九二三、一一六兩

赤糖

一〇九、九一五担余

三二九、七四七兩

白糖

九九、七五〇担余

四九八、七五四兩

冰糖

八、〇四一担余

六四、三三六兩

烏柏油

五六、五四七担余

三九五、八三三兩

葉烟草

四五、五三一担余

一八二、一二四兩

精製烟草

一九、三六六担余

三二九、三三一兩

輸出の部 再輸出共

豆

二二、六〇〇担余

一一三、六〇一兩

乾百合合

五九、四〇七担四一

二九七、〇三七兩

米(有税)

一一三、四三八担余

一一三、四三八兩

米(無税)

一一一、一八七担余

一一一、一八七兩

胡麻豆

四二、五三三担余

一二七、六〇一兩

絹布

四七九担余

一六三、九四九兩

宜昌

位置  
人口  
地理

宜昌は湖北省に屬し楊子江右畔に瀕し漢口を距つる上游三百六十三英里の地にあり北緯三十度四十九分東經百十一度十分に位す人口約三十五萬都府甚た盛大ならずと雖ども其の位置水陸の要衝を占め長江の上流に據り西直に巴蜀に通して楚北の咽喉たり而して東南に荆門山あり北岸の虎牙山と相對し一の門戸を爲し以て東湖下流の要扼をなす南は大



江を隔て、執笏將軍葛道等の諸山競ひ起り争ふて西に向ふ東は東山あり西に走り西陵金剛諸山に連れり此地溪流多くして夏日ハ皆舟楫の利あり其の水源稍遠くして尤も便なるは監江長橋の二水にして監江流は城東監江舖にあり水を泝れば北往凡そ二百餘里にして遠安縣に到るを得可し長橋溪は北方院社樟村の二舖より發源して南流凡そ五十餘里南津關に至り江に入る即ち城西なり

民城市

此地春秋の時楚の地に屬す明に至り彝陵州となす清の乾隆年間此地の重要なるを以て府を建て縣を改めて東湖と名づく而して今夷陵と稱す治下縣三あり曰く長陽宜都遠安とす府周圍繞らすに城壁を以てす同治二年に大修理を加へ稍堅固と稱す全長七清里七門を穿つ墻高凡そ十間余厚さ二間半

乃至三間被ふに磚瓦を以てす壁上二馬を駢行すへし戸數六萬あり城内府廳縣廳道台委員出張處電報局の諸衙門あり總兵官羅氏茲に駐紮して近傍の兵營を總轄し兼て當省西方の防衛に任す東門外勇兵五百人駐屯す城内各街商業盛ならず只南州父昌中水鎮川北庄の五門外には各支那船碼頭ありて蜀楚上下の大船巨舶皆な之に停泊し自ら船戶楫夫の雲集するを以て江に瀕するの地は尤も熱鬧を極む又北門外一水を隔て、西壩あり人家稠密船舶の停泊するもの亦た少からず而して右五碼頭に泊する船舶は平均每碼頭二千隻を下らざる可し

此地水陸の要衝に當るを以て兵亂ある毎に必ず害を蒙る髮賊の乱殊に其害毒する所と成る故を以て人氣甚た良からず



其文武諸役員の外人の對する嫌惡の情今尙ほ甚たし

此地の産物の綿花薯の二種を以て大宗とす

漕運

此地四川入口の衝に當るを以て中外貨物の四川及び近隣地方へ輸送する者は一旦悉く茲に輻輳し其民船にて來るものは瀛船に積み換へて下り瀛船にて到るものへ民船に積換へて上る而して獨り民船瀛船交々積換ふるのみならず漢口其他よりの民船にして更に四川に送る可きものは是より所謂巫山峽の險を過さるへきを以て流れ甚た急にして上る可らず故に其の四川船にあらざるものは皆な四川船に積み換へざるを得ず是を以て此地税關出入の貿易貨額は頗る大なりと雖ども其の實其の貨物の殆んど五分の四は四川省重慶に運送して以て其の費消に供するものなり此地招商局の碼頭

ありと雖ども冬日は水涸して其の用に當らず毎年十一月より翌年二月下旬頃に至るの間は江中過半沙湖となり江岸より凡そ十丁許り歩するの後ち更に小船に搭し行くと一丁許り以て僅に瀛船に到り得るのみ

千八百十九年中本港へ出入したる瀛船は合計百六回（一出入を一回とす）よして其噸數四萬一千噸なり内八十四回噸數三萬千三百二十六は支那船に屬し五十八回九千六百七十四噸は英國瀛船に屬せり

宜昌平山浦なる釐金局の調査に據れば同年間に出入せし支那船數は一萬一千七百艘にして内三千七百艘は最大積量の者にして平均百五十噸位を積み二千艘を中等船とし各々六十乃至七十噸を積み其餘は皆小船なり而して稍々大なる



者の一年間に少なくとも二度往復するを見れば宜昌重慶間往復貨物の甚た多額なるを知るに足らん此等の船は皆長さ八十七英尺中央の深さ十六尺七五にして積量は六十八噸位を常とす

貿易 此地の開港は一千八百七十七年(光緒三年)英清の芝罘條約に依り蕪湖と共に開港する所に係る爾來已に十三年の星霜を経るも貿易更に盛大に赴くの望あるを見ず唯其の積換貨物の出入は其數を加へ殊に今春重慶府を開ひて愈々實際の貿易港となすに至りたるを以て該貨物の出入は向後益々其額を増すに至らん當地は洋商の住する者なく僅に英國領事及ひ稅務の諸官吏其他醫師宣教師等にして男女老幼を合せて僅に十餘名のみ未た一の商館を開くものあらず頃日始めて英

國領事館を洋風に建築中なりしか本年八月哥老會匪の爲め灰燼に附せられたり此地輸出入貨物は稅關報告に依れば毎年平均輸入二百五十三萬圓輸出二百七十萬一千七百圓の多額なれども概ね重慶漢口兩港の取次所たるに過ぎざるの事實は上文已に示す所たり今左に本年輸入重要品の比較表を示さん

貨名	輸入高	内地輸送高
綿織絲	七、九七一担	七、九五〇担
鉄線	一、一一八担	一、二四四担
水銀	二〇四担	二〇四担
日本銅	一〇八担	一〇八担
眞鍮線	六一担	六一担
鮑	七一二担	六七一担
眞鍮ボタン	一五担	一五担
時計	一、五五八担	一、四五七担
第一門 商業地理 第三章 廿五港 宜昌		二百二十七



錫	三、三一八担	三、一六四担
染料	五五、九〇七兩	五五、六六五兩
鴉片洋燈	五六、三三九	五四、八二二
黑胡椒	一、七九八担	一、六〇八担
海苔	八、五一七担	七、一六一担
鱈鱈	一五二担	一四八担

芝罘港

位置  
人口

芝罘港は遠く渤海口端に突出せる山東岬の北面に在り山東省登州府福山縣に屬し我國通商港の一たり北緯三十七度三十五分五十六秒東經百二十四度二十二分三十三秒に位す人口凡二萬六千東南西の三面山を負ひ北一面海に臨む其地勢重疊として松樹蒼蔚山水屋宇の趣致甚た我國に似たり此港は天津牛莊に於けるか如く冬季結氷の患なきを以て船舶の往來四時絶ゆるなく帆檣常に林立し物貨輻輳賣買甚た盛なり

地理  
形勢

り加ふるに四通八達の衝に當り水陸運輸の便を占む蓋し天津航路の咽喉にして北洋樞輪の一港と云ふ可きなり此地本來の名稱は烟臺と云ふ芝罘とは本港の北面に突出せる小半島の名にして西人錯て港に名く其幅員東西凡六里南北凡一里半地形平坦只海面に突出して烟台山あり高さ凡五六十米突にして險ならず山上亦家屋多し山南凡半里許の間は外人居留地にして三面海に臨み高厦相連り道路亦堅良なり市街の南方凡一里許を離れて山脈連亘し其間稍開豁にして隴畝なく東方水面を距る二里半崆峒島に對し北亦水面を隔つる凡一里半許にして芝罘島あり西凡十三丁余を離て山脈南より連り海に臨みて山上に砲臺あり而して其海岸は曠漠たる砂原にして地脉稍西北に延ひ綿々として芝罘島に



接し海面之に依て灣をなす此間即船舶碇泊の處とす其芝罘島は長さ二里余天然の廣大なる防波堤をなし能く諸錨地の北東二面を遮護す灣内の錨地は五尋より七尋に至り總種類の船舶を容るゝに水深充分なりと雖偏北西の烈風に堪へざるの不便あり北風冬季特に強し然れども停泊の安穩を妨くるに至らず港内五十艘の軍艦を泊せしむるに足れり底質は泥土なれども海濱附近は沙泥相混せり故に港内到る處受錨に佳ならざるなし又烟臺に小埠頭ありて能く波浪を遮護し上陸するに便なり而して船舶の小修繕は此港に於て爲すを得可し唯飲水を得るに難し其一斗入水桶二個の水價我か三錢なり

市街 市街は烟台の點より西南に連り海岸に接す全街の長さ東西

九百間寛百五十間之を外國商店街廣東街及土人街に分つ烟台の點を直南相距つると五百間余土壁を以て四面を圍みたる古城なり之を奇山所と稱す東西百六十間南北百二十五間唯畦圃の上に胸壁の高きものを築きたるのみ壁已に破壊したる所多く農民の稍豊かなるもの居を此の中に占む此壁の東西なる左右に村あり東を東莊と稱し西を西關と云ふ三箇凡て二千戸あり

以上の人家ある所を芝罘港と稱す人家一萬五六千港内の市街は丘の内部を洋行街と云ひ其の西を海關街と云ふ茲に税關及郵便局あり是より海岸に沿て西南を廣東街と云ふ此地奇山所の北門外と遙かに相對し廣東の會館あり福建の會館あり巡見衙門あり芝罘汛衙門あり是より又海岸に沿て西方



を後海沿と稱す道台衙門及海關あり西海關と稱す支那船にて出入する諸物貨の税を收む是より西を強道街と云ふ茲に小河あり西河と名く石橋を架す其橋西に雲號門あり其門傍に水防局及山東の海防練軍兵營あり市街は此城壁を限りとす同門外は荒野にして一條の大道北西に向ふ即ち砲台山の間を経て海岸登州府に達す此道路又絹綢製造所施醫院耶蘇堂競馬場及通伸村芝罘村等に通す東面の海岸は沙濱にして村落なく宣教師居宅の散在するあるのみ又烟台より直南に向ひ險山脈を越えて内地に通する三條の道路あり東道は内部より寧海州地方に通し中央道は萊陽縣に通し西道は棲霞縣に通すへし以上の三道は人夫と馱獸に藉て運輸の道を取るのみ

此地馱獸の運送には大概騾子と驢を用ゆ騾子は北部に比するに軀幹小にして多量を荷ふに適せず殊に山脈を經過するに依り一頭二百斤を馱するを上等の騾子とす次は百五十斤にして亦多數ならず騾子の常に芝罘港に往來するは二百頭に過ぎず

## 風俗

芝罘土人の家屋は石を用お半は瓦磚を用ゆ稍清潔なれども大厦なし土人の頑愚なること北部より甚たし人と臺釐を争ふて路上に鬪ふ最も外國人を惡み通行の途次往々石片等を擲つて妨害を試むることあり然れども今や大に其嫌度を減せるを見る

氣候 氣候は天津に比すれば稍溫和なり地勢峯巒起伏山水清秀風土人意に宜しきを以て近年に至り外人の支那に在るもの時



々來遊し就中夏時に至れば暑を此地に避くるもの頗る多し支那開港場中人生の健康に適する蓋し此地を以て冠とす又冬季白河封結の候に至れば天津及北清各地方に至るの貨物郵便等は皆な此地に於て上陸し陸路を経て之を輸送するものなり

## 物産

本地は川綢繭綢を出すに甚々多く價亦廉なり旅船の此地に碇泊するものには絹商争ひ來て之を鬻ぐ然れども精好の品は肆店に就かされば購ひ難し石器、白菜、素麩の如きは本地の名産にして又大豆を産すると頗る多く及本地近傍騾驢多く蕃殖し青魚大口魚等の産出亦尠からず

貿易  
由來

芝罘は千八百五十八年六月(清咸豐六年)天津條約に依て英と約して通商の地となす後十六個所の開港場を議定するに當て

本港亦其一に居れり爾來商業漸く旺盛となり千八百七十一年七月日清の條約を定め通商の口岸を選ふに當り本港を以て其一に加へたり夫れ此地は千八百七十六年六月サートーマスウエード氏李鴻章と所謂芝罘條約を訂結したるの地なるを以て其名殊に人口に膾炙す

## 船舶

本港出入の汽船は千八百八十九年に於て總計二千二百四艘にして其前年は一千九百四十八艘とす風帆船は同年五十八艘にして其前年百十八艘なり船舶の出入其多き斯の如しと雖ども其中此港の位置切要の地に當るか故に一時寄泊の船舶亦尠からざるに依る試みに其一例を擧ぐれば同年我日本の上海芝罘朝鮮諸港及浦鹽斯德の間に航路を開くや日本汽船の本港に出入するもの頗る増加し其前に於ては僅かに五



十八艘にして其噸數四萬八千六噸なりしも該年には百十四艘噸數八萬六千七百七十二噸の多きに至れり又近年上海に於て製造せる支那人の所有に屬する康濟號なるものあり噸數三百十三噸専ら未開通商の港なる龍口及虎頭崖等の各地に往復し龍口の貨物を取て之を虎頭崖に運輸し同年八個月間に其運輸したる貨物は艸帽緞一萬二千包麥粉鴉片獸毛の類甚た多し亦た開平礦務局に屬する汽船北平號あり威海衛及其他各處に石炭を運致し皆其途中芝罘に寄港す此類枚擧に遑あらざるなり

貿易 千八百八十九年に於ける本港外國貿易の總額は一千二百六十六萬六千五百七十八兩にして之を上年に比すれば其超過すあと銀七十九萬六百七十四兩なり然れども前項船舶の部

に示すか如く一時寄泊の船舶あるか故に直輸入ハ四百二十二萬九千百三十六兩にして却て前年より減すると八萬千八百五十七兩なり殊に此輸入額中には難民救助の爲め購求したる外國米價二十五萬八千三百九十八兩を包含するか故に之を引去る時は三十四萬二百兩余の減輸入なりとす今左に輸出入の重なるものを掲ぐれば

其輸入にあつては生金巾は廿一萬八千四百八十四疋にして其前年は二十九萬千廿四疋なり晒金巾は四萬九百九十六疋にして其前年は五萬千八十七疋なり緋金巾は六萬四千六百零六疋にして其前年は八萬六百七十疋なり手帕は二千四百六十四打にして其前年は七千二十九打なり英國產粗布は七萬七千五百十九疋にして其前年は十六萬五千七百五十一疋



なり英國産の紋布ハ五萬六千百三疋にして其前年は六萬六千八百九十疋なり綿糸は英國産二千二百五十三担印度産五萬六千四担にして其前年は英國印度の二國産の輸入總額は六萬九百二十一担なり如此外國輸入品は皆減少したるも特に米國産粗布の紋布は其前年に比し大に増進せるを見る此二品は英國と互に相消長し本年英國産多ければ次年には米國産減少し互に其缺を補へり

毛布雜類は同年に於て殊に大に其輸入を減せり是れ北方人民の漸く棉布及獸皮を衣るを喜んで毛布を用ひざるにより其需用を減したるに由れり

金屬類の輸入額も亦同年に至りて稍減少せり就中古鐵は前年に比して其減額の最も甚たしき者とす此古鐵は馬蹄鐵、瀛

機輪「レール」を除くの外鐵道交頭の環鎖類尤も多し支那人は之を用ひて船錨、飯鍋、及農具等に供用し各地に轉運して其用地頗る廣し

朝鮮豌豆は山東産に比すれば其品質下劣なるにも係らず唯千八百八十九年に於てハ三萬五千九百五十五担を輸入せり石炭の輸入額は同年一萬八千八噸を輸入し之を前年に比すれば一倍の増加たり燐寸は同年中二十一萬九千四百廿六「グロス」にして石炭油は同年三十四萬七千四百五十「ガルロン」を輸入せり之を國別すれば米國三十二萬百六十「ガルロン」魯國より二萬七千三百「ガルロン」を輸入せり

其輸出にあつては牛莊と同じく蠶豆及荳餅を以て其大宗とす其年々南方各地に輸出するもの甚多く同年間に輸出に係



る荳餅九十六萬六千七十二担蠶豆十五萬八百二十七担にして其前年には荳餅百二十九萬九千四百八十五担蠶豆七萬八千九百九十六担なり其他艸帽緞繭黃白絲蠶繭野絲亂絲等の輸出亦多く同年の輸出艸帽緞五萬二千百六十二担繭絲二千七百六十六担白絲四十七担黃絲二千四百二十五担野絲二千七百三十二担亂絲頭八千三百二十五担なりとす

牛莊

位置  
人口

牛莊は滿州盛京省に屬し清國開港場中最北の港にして我國通商港の一たり遼河口の左岸に瀕し河口を溯る十三里あり北緯四十三度三十五分東經百二十二度十分位置す人口萬余東北牛莊城を距る一里半奉天府の咽喉たり外人は之れを牛莊と稱すれども牛莊は牛莊城のある處にして此の地の

稱にあらす尙烟臺を芝罘と錯稱するか如し其本來の名稱は之を營口と云ふ又沒營口と稱し營口又分れて兩街となり西方即ち下流にあるものは土人の市街にして人家多く之を西營子と謂ひ東方即ち上流にあるものは外國人の居留地にして之れを東營子と呼ぶ此に鎮海營を置くを以て更に此地を稱して鎮海營と云ひ土俗又沒溝營と名く

地理  
地勢

東西營子は河岸に沿ふて人家連續し南は蓋平縣に至る凡八里余皆曠漠たる水濕の荒地を控へ下流は海口に至る迄凡十二海里の間蘆葦繁茂し泥澤ならされは則ち鹹鹵の荒地一望際なく更に水土の限界を認め難し此港を横きりたる遼河は營口の下流二十海里の處灣曲をなす之を東弓灣と名つく茲に人家五十戸あり馬兵及歩兵を屯し提督駐劄して之を管す



又下流三海里の雞爪子溝に於て灣曲をなし南に流下す此處を西弓灣と名つく下流五海里の地に海岸砲台を築けり

氣候  
通運

營口の周圍に繞らすに濕地を以てし其既に開墾に屬したるの地は重に蚕豆を産出せり而して其地北方に位するを以て寒氣頗る烈しく十月下旬より北風凜烈十一月下旬より三個月間は河水結氷し電報の外交通殆んど絶へ全く孤立の姿となる然れども氣候稍健康に適せり又遼河は結氷時を除くの外概ね一週日一度汽船の往來あり然れども定日なく亦輸出入品の都合により二週余日も來船なきとあり而して其往來へ上海芝罘の通航を主とし天津へは甚稀なり

城市  
物産

營口市街の墻壁は往時開港の頃馬賊を防ぐ爲め築きたるものに係り爾來毎年其損所を修理すへきの規定にして政府年

々其費額を給するも有司其金を私して更に修理を加へざるを以て今は大に頽敗せり此港は毎歲結氷時運輸の便を欠くと且つ該地方風俗惡しく屢々商業を妨害せしを以て其市街は未だ甚だ昌大ならずと雖ども此の地方は金銀鐵石炭等の諸鑛山多し顧ふに不遠大に鑛物を輸出するに到るらん而して此の地の商人は多くは山東省のものにして山海關邊のもの十中の二に居る其本港商賈の大なる者は油房にして豆類及麻子類より油を搾りて各地に輸送す其大なる者二十戸每家雇夫百餘名を使役し牛馬百餘頭を飼養し毎年五六萬兩を賣買す輸出品の重なるものは豆油豆餅豆子獸皮及人參等の葯材にして輸入品は綢緞、南紙、陶器砂糖、及金巾等の洋貨とす此地海老魚及其脂に食鹽を加へ少なる瓜の類を積けたるも



のあり其味甚美なり共に各地へ輸出す

製鹽 製鹽場は蓋平縣の管轄にして二道溝三道溝に收稅局を置き其本局は頭道溝に在りて佐領一員を以て之を管せしめ又藍旗廠黃旗廠二分局を置き以て脫稅を防ぐ總て盛京道の總轄に歸し其賣買は營子口に於てせり冬季三個月の間は車輛の往來最も多く東北の各地より本港市街に入るもの一日數百輛を算すへく東鴨綠江崖東北へ吉林黑龍江の兩省西北は内蒙古一帶の地より皆雜穀を積み來り歸途必ず鹽を裝載せり故に食鹽の仲買するもの一千餘人の多きあり内地船舶の南方より來る者は沙船最も多し

沿革 往昔此の地は一般遊牧民の居處にして天幕を張りて生活せり其小團結を名て窩棚と稱す此天幕を連張せし窩棚は其形

恰も軍營を連ぬるに似たり因て營子の名ありと云ふ此の地に一の潮水溝あり退潮のときは干溝となり滿潮のときは海水其の溝を覆没す然れども潮水更に窩棚を損ふとなし是に由りて土俗之を沒溝營と稱す其風水を卜して間々又此に家居を移すの民あり是れ即ち小部落をなすの始めにして實に道光三年の比なり數十年を経て咸豐十年同治の初年此に各國の互市場を開くに當り鎮海營を置き辨兵を駐屯せり此遼河港口は始め營子口の上流白華港に開きしか河底年々埋没し大船を容る能はざるを以て屢々其の位置を轉したり此營子口と雖も尙ほ確定し難く其形勢を以て之を推究すれば亦數十年の後は下流五海里の雞爪子溝と名くる右岸の地に移轉せざるを得ざるに至る亦知る可らざるなり



貿易 千八百八十九年に於ける本港の輸出總額は五百五十七萬二百三十五兩にして其の最も重なるものは蠶豆及び豆餅とす蠶豆ハ千八百八十九年に於て百九十一萬六千八百七十七担を輸出し豆餅子は同年一百八十九萬三千三百三十四担を輸出せり之を前年に比すれば蠶豆の輸出七百三十四萬百九十一担を減し豆餅二萬七千七百五十担を減せり其の他輸出の重なるものハ左の如し

品目	數量	價格
人參 土產	九八三担九五	一〇七、七〇三兩
鬚頂人參上等	三四五担五五	二一、〇二三
朝鮮人參	一八六担四四	一七〇、九三五
鹿角	一、六一五對	五〇、九五九
藥材		四二、六四二

豆油	五六、九三八担九八	二三四、七三七
生絲	七、九四二担餘	六三六、四八一
繭	四、三八四担餘	八四、二四一兩
山羊皮	一〇三、九八〇箇	九七、九三九
麥	六四、三九一担余	七六、〇五八

外國品輸入の總額は二百二十萬四千四十一兩に及て其の重なるものを鴉片棉布類とす然とも鴉片の輸入は數年前より逐年減少し千八百八十九年に至りては僅かに九十二担を輸入せしのみ是れ全く土人吃烟の減少せしに因るに非ずして滿州に於て近年罌粟を耕殖するもの頗る多く其自ら鴉片を製する甚た多きを以てなり又其の内國産の輸入は總計一百六十七萬八千三百九十四兩とす今輸入外國品及び外國品の重なるものを擧れば左の如し



外國品

品目	數量	價額
生金巾	七八、二一〇反	九七、〇〇〇兩
晒金巾	一三、六五六反	八六、八五八兩
米國雲齊	一二四、四〇〇反	二五八、〇九七兩
米國粗布	一九四、九四〇反	三八七、五二八兩
印度製棉絲	三七、九四八担	五四二、五一五兩
吳呂	一〇、〇四八反	五七、四八五兩
英國粗布	一五、八〇〇反	三〇、四三四兩
天竺布	四四、四〇五反	三九、三八〇兩
英國雲齊	三六、三三五反	七四、一一五兩
古鐵	五五、六七七担余	六八、三六九兩
歐羅巴摺附木	一三二、〇一九箱	九〇、六四三兩
内國品		
棉花	一五、九〇五担余	一五三、九四六兩
紙類	一五	一三七、六一三兩
米	二五八、四三三担余	三八八、二六二兩
赤糖	七九、五八四担余	一八〇、〇一二兩
白糖	一九、四三一担余	九四、六九七兩
冰糖	六、〇一二担余	三〇、九二二兩
麥	六四、三九一担余	七六、〇五八兩

温州

位置 人口 交通

温州は浙江省の東南甌江の南岸上游廿五英里にあり北緯廿八度零一分東經百廿度三十一分に位置す人口十萬東は大海に届り西は重山に際し利水陸を兼ね握し土地沃壤となす閩の吭を扼し甌越の衝に中る府の近傍四方五英里の間平野綿亘其以外の外は山巒疊重たり其交通は北方水陸共に樂清臺州



等に通じ南水陸瑞安平陽を経て福建の大道に連り西處州に達するの道は水陸兩路ありと雖陸路は險惡にして宿驛旅宿に乏しく行旅皆水路に依る東は則ち甌江にして海に通じ瀛船の往復自在なり實に四通八達の區と云ふへし

城市形勝

此地春秋戰國并に越の地明初始めて温州府を置き清之を襲ふ治下縣五あり曰く永嘉瑞安樂清平陽泰順とす府周繞らすに城壁を以てす全長殆んど四英里之を築くに概ね磚瓦を以てす全長四英里市街は概ね城内にあるも南門外より東門外の邊亦人烟甚だ稠密にして貿易頗る隆盛なり街路は磚瓦を敷き幅三間乃至四間橋梁は石造にして巾四間許修繕能く至り清掃塵なく支那市街中甚だ稀れなる所とす道廳あり府廳あり總兵衙門あり其他種々の官署及塔堂伽藍高閣層樓遠く

雲外に聳へ就中其の結構の宏大なるは棄兒院にして千七百四十八年の創立に係り内に一百有余の房屋を備ふ府城の東門外に一塊の小山あり華蓋山と云ふ半腹寺院あり華麗を極む山頂に一亭あり是れより東方を望めは下流數里の地一眸の中にあり傍らに一大古砲あり又東門外には一座の砲臺あり築くに磚瓦を以てし砲門五個を穿つ式舊く砲劣なり北門外甌江の中央に一嶼あり孤嶼山と云ふ寺あり江心寺と云ふ宋末文天祥茲に四方の豪傑を募る事成らす詩を留て去る其西端に二基の高塔あり往昔の建築に係はり古色頗る掬すへし而して今や已に頽廢に屬す

風俗物産

人民は溫厚にして文を貴ふ然れども其中等以下の人に至ては頗標悍にして鬪争を好む物産は牛皮甌綢橘餅穀物雨密柑



等あり其飲水は井水河水を并用す

貿易 温州は從來茶業貿易の尤も盛なる地にして千八百六十一年前は該省中茶を輸出するの許可を得たるは獨此港に限りたるを以て當時商況頗る繁昌なりし然るに一たび髮賊の此府を陥るに及政府は其の貿易の賊手に落んとを恐れ遂に沿岸數處の港より茶の輸出を許可するに至り嘗て此の地の壟斷に歸し居たる茶業貿易の利も隨つて勢を轉じ南は福州に輾轉し北は寧波に集まるに至れり爾後公開の條約港となるに及んで皆な再ひ往時の隆盛を期望したるも遂に舊勢を挽回する能はず現今尙ほ外人の居留地なく其の來住するもの極めて少なり其の居るもの多くは雇吏牧師に過ぎず電線の設尙ほ未たあらさるか故に各地相場の景況行市の鎖滯等一も其

消息を速了する能はず加之瀛船の往復定期無く其運轉進止の間自から隔靴搔癢の情無き能はず此等諸弊を一變するにあらされは未た俄に其盛衰を判じ易からざるなり千八百八十三年以來本港貿易の景況を見るに同年の總價額ハ四十一萬五千三百九十四兩にして一千八百八十三年は増して七十七萬二千七百四十三兩に至り其翌八十九年に至り減少するごと四萬三千兩なり然れども該年輸出貨は大に増加し其の額十一萬九千零三兩に上れり今年輸入品の概況を擧ぐれば左の如し

外國鴉片に就ては白皮土六十九担三十斤公班一百卅二担之を前年に比すれば共に大なる差異なし綿布類は之を前年に比すれば稍々減少し原色布の輸入は二萬九千二百九十五反



小控布は三萬六千七百反其餘の棉布類皆多少の減少あり唯手帕の輸入上海より來る者價低くして銷費宜しきを以て其の輸入獨り多し其の棉布の兩種各一千有餘担其餘の毛布類皆千反に上らす蓋し六月中一大洋店の倒産せし者あり爲に恐慌を該商人間に來せしに因る銅鐵類は鐵絲の輸入年に多きを加へ鐵條は年々減少す蓋し此兩種は概ね等しく釘を製するに用ゆるものにして唯鐵絲を以てすれば甚た便なるに依り勢い其の輸入を増す所以なり又日本銅は四百三十五担之を前年に比すれば一倍を増加せり其雜貨類に就ては染料四千七百十九兩にして之を前年に比すれば減少甚たし之れ該料は多く洋布の染用に供する者なるに去年洋布の來ると甚た少きを以て隨て其滯銷を來さざるを得ざるに因る日

本産人參は三十七担にして前年に比れば増加すると十八担なり高麗産は支那船を以て輸入し瀛船に依らす栲皮は二千九百六十九担其の用途は之を船上の篷棠網綱等の染料に供す摺附木は日本製四萬六百グロス每「グロス」百四十四盒之を上年に比すれば殆んど一倍の増加あり洋針の輸入は近年に始まり千八百八十九年には四萬枚以上に及び支那製に比すれば其の價廉なるを以て其需用隨て廣し石油は米魯二國産共に其輸入を増加し魯國産は十五萬六千加倫米國産は十六萬二千加倫を輸入せり同年内國産の菜油は其の價貴く毎斤百廿文にして石油は僅かに六十五文に過ぎざるか故に其の石油の増加に至るは亦自然の定數にして魯油は米國産に比すれば價稍々賤し然れども其質潔淨ならざるを以て土人は



米油を喜へり

輸出貨物は年々増進の景況あり其の最も盛なる者を炭、藥材、烟葉等なりとす蜜柑は此の地の名産にして世に温州密柑と稱し本年の如き一萬零八百十五担有餘を輸出せり而して同品の銷場は天津を以て最とす白礬は千八百八十五年三千担を輸出し其後絶て同品の出港を見ず其の産地は平陽最も多額を出たし寧波人棉花を以て行て之を賣買せり牛皮は本年絶て輸出なし聞く皆内地より運搬し道を此地に由らさりしと獨り茶葉の貿易は稍々盛にして紅茶千四百五十担綠茶二千二百一十一担内紅茶は之を漢口に運出し綠茶は之を上海に運出せりと其内地開港場外輸入貿易の景況は前年に比れば大に衰へり其貨額は三萬八千六百六十兩概ね皆洋貨にして

其内尤も重なる者は平陽龍泉二所運送の米國産石油とす

### 厦門

位置

厦門港は福建省厦門島の西南隅にあり我國通商場の一たり西漳州府を距ると十五里東北泉州府を距つる三十里にして北緯廿四度三十一分東經百十七度零四分に位し人口十三萬餘埠頭平穩風波起らず蓋し支那沿岸良港中の一なり

港灣

港口二あり其一は島の北端なる高崎岬と對岸本土潯尾汎と相對して北口をなす其巾僅に千五百米突水深の部甚だ狭く只支那形船の通路に供し得るのみ其一は島の南隅白石頭と對岸本土の嶼仔尾岬と相對して東口を成す其幅約五十米突水深十三尋之を本然の入口とす廣袤甚だ狭からず各方の風總て安全なるか如し船舶皆港内に碇泊し容易に海岸に近く



を得へし

城市市街は山を負ひ海に瀕し寺院高塔各地に散在し灣内亦幾多の島嶼砦布羅列し其風景畫くか如く眺望頗る佳なり市街を二部に區別し内市外市と曰ひ一條の岡阜怪嶺奇石巉然として内外二市の間を横斷し一條の道路を開ひて三市の間に通す全周繞らすに城壁を以てす長さ殆んど八英里墻の高三間厚二間築くに石を以てし其頂に射眼を穿つ城門は四ヶ所に開き東西南北門と稱す每門櫓あり上に哨兵を置く城外壕の設なく城内外商家稠密城内には水師提督縣廳其他の諸衙門を置き道臺衙門は城外にあり市街盡く石を敷くも溝渠の設けなきより大雨の候は市街滿水行人大に苦む路最も狹隘にして不潔なり

地附近

附近の地人の耳目を喜はしむるに足る者少なからず漳州府の如きは近く三十五英里にあり外人の漫遊するもの多く鼓浪岐は厦門島の西南海水八丁を隔て位置し周回僅かに一里半許怪石巖々丘岡參差其戸數四十余土人の住家僅かに七百余戸人口二千八百余とす外人の居宅は皆此嶼に在り白堊日に映し高樓空に聳ゆ俱樂部あり打毬場あり又教會堂あり頗る壯麗なり船渠三あり築くに花岡石を以てし其最大なるものは長さ三百十英尺巾六十英尺にして外人の所有に屬す此地新聞二種あり日刊厦門ガゼット及周報厦門コーカンダイルガゼット是れなり居留人二百八十有余人とす

人情物産

此地全島の家屋は皆築く煉化石を以てし壁は白塗にして室内盡く土間とす商家は貧富混合村落内却つて富家多し人



氣は頗る狡猾なりと雖ども外人に對しては輕侮暴行等を加ふるとなし輸出品は紅茶陶器明礬砂糖米石煙草瓦鐵器等多しと雖ども悉く泉州漳州府より出るものに係る此島民は能く力を耕作に用ひ落花生或は蕃薯を植ゆ唯麥は至て尠し又其漁業をなす者少なからざるか故に魚類常に甚た多し

貿易  
由來

廈門は天津條約の尙未だ締結せざる前已に公開したる通商五港中の一たり此地夙に西洋各國と通商貿易し葡萄牙人は千五百四十四年始めて此地に來り互市を開けり然れども其の内國人に對する所業甚た殘酷亡狀なりし爲め支那官吏の憤る所となり終に此地を放逐し船舶十三隻悉焼亡せらる英國人も亦た舊しく此地に於て貿易をなし居りしか千七百三十年の交に至り支那政府は布告を廢して廣東を除の外は一

切各港に於て外人と交易なすを禁したるを以て外商の居を此地に占むる能はざるに至りしか獨り西班牙船のみ特許を得て自由に出入貿易するを得たり而して他の各外國商人等尙國禁を犯して私に通商をなすもの絶へず千八百四十一年英人の此地を畧取し尋て北京條約を締結するに至り終に公然の貿易場となれり

貿易 本港の貿易は稍盛にして香港汕頭福州の間及海峽諸殖民等の間に定期航海の汽船あり或は不定期航海を爲すものあり其通交頗繁し千八百八十九年に於ける貿易の總價額ハ一千五百廿一萬九千二百九十九年にして内外國貨物輸入の總價額は六百二十萬三千二百九十八兩内我日本の輸入に係はるものは八萬五百七十六兩とす



米國産石炭及び摺附木は本港輸入の大宗にして摺附木は廿六萬五千九百六十四「グレ」石油は卅二萬四千三百「ガロン」なり其他輸入品の重なるものは米麥棉絲天竺布晒金巾生金巾等とす今千八百八十八年及び八十九年の二年間の對表を示す左の如し

品目	千八百八十八年額	千八百八十九年額
米	一七八、六七九担	四九、三一四担
麥	三六、一二四担	三五、一二七担
棉絲	四八、九八四担	五〇、八四七担
天竺布	七四、九一〇反	七〇、五六二担
晒金巾	五七、九〇四反	六一、五六七反
生金巾	一八、〇九四反	二六、七〇四反

千八百八十九年本港に於ける内國産輸出の總價額ハ二百五

十一萬四千三十七兩にして其最も重なる者を茶砂糖とす然れども茶は昨年非常に其額を減じ僅かに二百五十萬七千八百斤のみ之を上年に比すれば百分の三十六を減す千八百八十九年の本港税關報告を閲するに淡水港より茶を本港に輸入し再ひ之を外國へ輸出したるもの千三百四十九萬四千四百斤にして淡水港輸出額の四分の三に當り其四分の一を同港にて賣却したるのみ而して印度錫蘭茶の勢日に盛なるを以て本港の如きも自ら其影響を蒙り年々多少茶の輸出額の減少するを見る

砂糖の總輸出高は二千五百十二萬四千二百斤にして其他臺灣糖二千担あり其最も多く消費するの所を天津牛莊福州寧波及芝罘等とし日本には二百一担を輸入せり今左に其場所



及消費額を示す

地名	種類	水	糖	白糖	赤糖
天津		四四、七七八担七三		六、七一二担三五	二七、六三六担五三
牛莊		五、九七七担八七		五、七二九担一七	六八、九〇七担六九
福州		二、一四一担三〇		五五担	〇
寧波		八、〇三〇担三二		九七七担三〇	四、〇九九担八九
芝罘		五、八〇四担三七		三、六〇八担九〇	六、二六二担六七

之れに次て雜貨輸出中重なるものを紙麻袋麻布粗磁器粉絲等とす

汕頭港

位置

汕頭港は廣東省の東境にして潮州府澄海縣に屬し韓河の左岸其海に注く所に在り我國通商港の一にして北緯二十三度二十分四十三秒東經百十六度三十九分三秒に位し潮州府を

去ると下流三十五海里の處とす人口四萬五千餘此地始め一荒地に過ぎさりしか通商港となるに及び其港灣の良と位置の善なるとにより内外物貨充滿し人民輻輳生意殷盛實に支那南方中廣東に次くの良港となるに至れり

地勢

此地西は潮陽縣に隣し東南海中に斗出し略半島の形をなす北澄海縣南の地と相對し以て一の港灣をなす汕頭は即ち其灣の中央にして兩地の最も狹隘せし處なり而して其内方は水面又豁開して濁浪洶湧の裡海となる蓋し韓江の數支流並に揭陽の數川流等多く茲に注けはなり陸は平坦にして砂土なり韓河の支流此間を流れ對岸は岡阜丘陵相連り韓河に突出し崖岸壁立して頗る奇觀を呈せり出入するもの此地を呼て喜望峯と云へり



氣候 氣候寒暖頗る健康に適す然れども市街の位置臺灣海峽の南端と相對するを以て暴風の害を免れず毎年多少其暴傷を蒙る蓋し支那南部沿岸の常災なり

貿易  
由來  
及居  
留地

初め唯鴉片船のみ出入し來りたるナモハ島を相して外國貿易場と定めたりしか爾後汕頭より殆んど四英里韓河の上流に横はれるダブル島に移轉したり此地開港の初年に當り外人の力役者を騙拐する等の風説起り頗る土人の感情を害ひ遂に其嫌惡する所となり外人の該島より溯るものあらは直に之を暴掠し且つ汕頭に出入するとを嚴禁し千八百六十一年に至る迄外人は汕頭に至ると能はざりし凡そ外人を嫌惡するの念は開港初年に於ては各處皆免る能はざるものなりと雖ども汕頭附近地方の如く其執念の深きは蓋し亦稀なり

爾後漸く貿易の利便を感じ嫌惡の情次第に薄らき遂に今日繁盛の状態に至れり  
 始め英國領事の潮州府に駐在するや久しく其輕侮凌慢を蒙り其地を去らんと欲せしと屢なりき其後千八百六十二年に至り汕頭を距ると殆んど一英里の河畔に一小區の地をトし茲に外人の居留地を設くるを得るに及ひ人民囂々頗る苦情を唱へたりと雖ども遂に一二の外館を創築し年を逐ふて次第に各所に増築し進て商館を汕頭及び附近の地に建造するに至れり爾來年を経て貿易旺盛商賈駢集するに及ひ漸く其地の狭小なるを感じ千八百七十七年二月以來更に海岸百二十六畝の地を請ふて之を築出し現今已に商館を築て其過半の地填するに至れり



貿易 本港の外國貿易は未だ極盛の繁昌に至らずと雖も近年漸次勃興の狀あり此地香港に接近し僅かに十五時間乃至二十時間にして達し得へきを以て支那商人自ら香港より輸入するもの多し一千八百八十九年に於ける本港外國貿易の價額は二千百九十八萬六千七百零三兩にして之を上年に比すれば六十萬有餘兩の増加あり今左に輸出入の重なる貨物の概況を示さん

千八百八十九年に於る外國産輸入の總額は銀七百三萬八十七兩にして内日本品の輸入價額十萬四千六百廿二兩とす就中棉布類の輸入は一般に前年に比して不満足の結果を生じたり即ち生金巾は上年より減すると三萬三百七十三反にして晒金巾は七萬六千九十二反色金巾は三千七百五反天竺布

は二萬五千四百九十九反緋金巾は四千四百八十反其他の布類は四千六十八反を減し棉絲は之を前年に比すれば一萬二千担を減せり蓋し棉絲は香港に於て漁船に搭載し此港を経て潮州府に至り一包三百斤に付一兩八錢の税を納れ興寧地方に輸送し始めて之を織物となせり是を以て其費用を計算するときハ税金及運賃の諸費大凡一包に付六兩廿錢七分の多きを要す然るに若し香港より九龍に至り關税を納め凹頭に至り厘金一包に付六錢を拂ひ東江及陸路に依て興寧に輸送するときハ其費用大凡五兩廿錢七分にして前者に比して一兩の減價を得るか故に自然棉絲の本港輸入を減する所以なり毛布數類も之を前年に比すれば亦大に減少せり  
内國産輸入の正味價格は銀七百八十萬兩にして其内豆及豆



餅其半に居り米は百分の十四に居れり其次を麻油藥材麻縞  
 緞粉絲麥等にして各十萬兩より十五萬兩に上れり豆餅の輸  
 入は二百三十萬五千八百廿七担にして之を上年に比すれば  
 十萬三千八百廿六担を減せり此等は皆牛莊及ひ漢口等より  
 輸入し來るもの多し葷子は七十三萬八千五百三十三担を輸入し  
 之を前年に比すれば七萬五千四百七担を減せり  
 本港の輸出は七百廿萬五千九百十八兩にして内再輸出に係  
 る十二萬七千二百七十兩を引去るときは七百七萬八千六百  
 四十八兩とす其重なるものは砂糖にして赤糖白糖二種輸出  
 の數量は百四十三萬七千五百一担其稅銀四百四十五萬四千  
 七百四十二兩とす而して其輸入の地は牛莊天津芝罘漢口蕪  
 湖鎮江上海寧波香港柴混新加坡英國とす

## 九龍

九龍は廣東省廣洲府新安縣に屬し其南部の半島にあり香港  
 と相對す本名はライチーコクと云ふ其九龍近傍にある一小  
 村落なるか故に轉稱して九龍港と云ふ茲に稅關あり廣東往  
 復の商船を監査す其位置最も便要を占む稅關附屬船二隻常  
 に海岸附近にあり近年海關在勤の外人及支那人の爲め數多  
 の家屋を新築し結構頗る宏壯なり

## 市街

九龍城は香港黃浦船渠會社の在るハンナム灣の東北なる一  
 小半島の後に在り市街の過半は城外に在り岡阜を攀ちて次  
 第に家屋を建て其風景稍佳なり城壁は築くに花崗石を以て  
 し其厚さ極めて薄く上に舊製の砲を備ふと難とも共に防禦  
 の價值あるものにあらず市街は各地通常の結構にして特に



記するに足るものなし道路は陝隘にして不潔を極め一衙門の存するを見ず質舗の獨り嚴然たると廢蕪に屬する公署あるのみ唯其稍見るに堪ゆ可きものは市街を距ると甚た遠からずして一城市あり繞らすに壕を以てし結構少しく堅固なるものあるのみ此地人口概算五千を出てす汽船は毎日香港と此地の間に往復せり

貿易 千八百八十九年に於ける本港外國品輸入の總價額は一千二百八十九萬四千七百六十三兩にして内國産輸入の總價額は三百七十一萬一千七百零七兩とし其輸出國は一千四百十九萬四千五百九十八兩なり今其貨物の重なるものを擧ぐれば左の如し但し鴉片は茲に掲けず

外國産輸入の部

品名	數量	價額
假漆	二、二七〇担六九	五九、〇三八兩
材木	二五、七一五個	二〇五、七二〇兩
米粉	九六七、六三九担六五	一、〇八三、七五七兩
印度産線綿	一一、〇九二担七四	一一六、四七四兩
鰯	五、一〇一担余	六三、七七一兩
鹽魚	二六、七五六担余	一〇七、〇二五兩
麥粉	二五、九九九担一五	八三、一九七兩
牛皮	四、八二四担余	五〇、六五八兩
熟皮	九七一担余	五八、二八六兩
米國産石油	三、八八〇、三四八加倫	六九八、五六三兩
魯國産石油	六、三〇八、八三二加倫	一〇〇、九三二兩
諸器械		一一四、六三三兩
摺付木	二六一、五〇六箱	五二、三〇二兩
茸	二、二六三担余	六五、六五〇兩



石炭	一三、五六八噸	九四、九七六兩
米	四六七、四五七担三九	三二七、二二〇兩
黑海參	二一、四六一担五五	一〇五、一六一兩
鮑	三、四一八担八六	八五、四七一兩
銅飯	四、三九八担余	五八、〇六七兩
古銅	七、五八三担六八	七五、八三七兩
鉄塊	五五、二九九担余	一一三、九一六兩
鉄棒	四七、一二七担余	一三一、九五六兩
印度産綿絲	一六、六三六担余	三二二、七六七兩

内國産輸入の部

豈白黃	七六、二一三担一一	一一七、三六七兩
棗	一五、七〇七担五三	五〇、二六四兩
乾魚及鹽魚	二五九、四七二担七四	一、一六七、六二八兩
茸	八、八五七担余	一七七、一四六兩
柔皮	五、〇四八担六九	九一、八八六兩

輸出の部

乾百合花	一〇、三七四担余	七〇、五四三兩
藥材	二〇、五二五担八六	一六四、二〇七兩
豕	八、〇五一頭	五六、三五七兩
瓜子	一一、八一八担五〇	五六、四〇一兩
胡蒜種子	二五、四三七担五二	八六、四八八兩
黃生糸	四五〇担〇二	一二五、一〇六兩
白蠟	二、八二一担〇二	一二四、一二五兩
素麵	三七、〇五八担四六	二〇七、五二七兩
傘紙製	二、一九〇、三一一個	二〇五、八八九兩
野菜	六〇、七八七担余	六〇、七八七兩
靴、長靴 絹及棉製	五六九、七〇五對	三九四、八八五兩
白生糸	一、九八七担三四	六五一、八四六兩
野糸	一、八六七担六七	一六四、三五四兩
屑糸	一、〇九七担二六	七九、〇〇二兩



絹布類	一、四三六担六七	七八〇、一一一兩
絹棉混合布	七八九担九三	一六二、七二五兩
絹絲	二八七担九一	一〇四、七九九兩
絲製手帕	一四五担五二	七六、八三四兩
赤糖	一六八、九八八担二七	五〇六、九六四兩
白糖	七四、二九七担余	三一五、四八一兩
紅茶	二四、三一九担五六	三一五、二八一兩
烟葉	八、〇三四担五五	五五、八四〇兩
刻烟草	三三、一六二担五二	五五三、一九六兩
上等紙	二六、二五六担一九	三四一、三三一兩
中等紙	六五、八四四担四八	二三七、〇三九兩
乾柿	一〇、八四九担三六	五四、二四七兩
豕	六四、四四〇頭	四五、〇八〇兩
米	四二、二八七担余	九三、〇三一兩
鹽	一六三、二八九担四四	六五、三一六兩

蘇蠶糸	六、二三四担二八	一一二、二一六兩
蓆	二〇、八二七四〇〇個	三三三、二三八兩
牛	五、八〇五頭	六九、六六〇兩
乾魚及鹽魚	五〇、二九〇担一九	二二六、三〇五兩
菓物	一〇四、五〇〇担余	一五六、九四六兩
草袋及藁袋	一七二、五七三個	六八、四六三兩
黃銅器	二、八六一担余	六四、六七七兩
青ブリック	三三、二五〇ミル	一三三、〇〇〇兩
赤ブリック	一〇、一三三ミル	七〇、九二八兩
粗陶器	七〇、一六三担余	二五五、一七二兩
絹衣裳	一、一六六担五〇	七五八、九五〇兩

北海

位置 北海は廣東省の西南部廉洲府を距つる約八里南流江の東京  
 人口 灣に朝する處にあり北緯二十一度三十分東經百十九度十三  
 氣候 灣



分は位す人口二萬五千一小半島の上に横はり正北に面し後方峻巖絶壁を負ふ其高四十英尺夏時西南の涼風を遮り冬季東北の寒風凜烈たり然れども氣候甚た惡しからず附近の地は渺茫たる原野相連り其開墾に屬する者甚た稀にして鷹及其他の飛禽群をなせり港へ水深くして且つ濶く暗礁等の危険なし蓋し支那各開港場中漁船の容易に進行するを得る者此港の右に出るものなし碇泊所は市街を距ると殆んど一英里の所に在り潮水干落の時は上陸稍不便なるも其満盈の時は甚た便利なり千八百七十七年英國領事始めて此地に國旗を翻せり此地土人の外人を遇する其深切なる各地の比にあらず港は重に廉洲府の貨物を載卸す蓋し廉州府は外國産棉布類の多額を消費し又此地より西江沿岸及び海濱に散在せ

## 貿易

る各都府に轉輸するの地なり顧ふに此港は他日廣西省の一  
大市場となるに至らん  
其貿易は従前皆内國人の手に成れるものにして香港及澳門より支那船に搭載し來りたる貨物の取次をなすものにして一千八百七十七年外國税關を通過したる貿易の價格は僅かよ一萬一千七百十四兩に過ぎざりしか其翌年より俄然驚くへき増加を來し千八百八十四年に至り四百十四萬六千六百十六兩に至り其翌年には四百三十九萬千四百五十兩に上り其翌年乃ち千八百八十九年には更に増加して四百六十萬七千二百零六兩に至れり今其輸出入を類別するに外國品純輸入の價格三百三十萬六千零六十九兩内國産輸入の價額廿七萬七千四百六十三兩にして輸出の總額一百二萬三千六百五十



兩とす今其重なる物品を擧ぐれば左の如し

外國品輸入

品名	數量	價額
生金巾	七一、八一七反	一一四、九〇八兩
晒金巾	三七、四〇二反	八四、一五八兩
天竺布小巾	七八、一三二反	七八、一三二兩
天竺布大巾	四七、七八五反	八三、六二四兩
印度製棉紗	九三、一四九担余	一、七六九、八五七兩
羅世伊多	一八、九〇四反	九四、五二〇兩
羅紗六中小巾	二、二七九反	五四、一四三兩
印度製線綿	一〇、〇七〇担余	一〇〇、七〇五兩

内國産輸入の部

品名	數量	價額
内國産諸反物類	八二〇担一五	二四、六〇五兩

輸出之部

品名	數量	價額
線綿	二、七三〇担八五	三〇、〇三七兩
藥材	七、八二三担七七	六六、八四二兩
絹布類	四二担〇一	二二、〇〇七兩
錫飯	九、六八四担四五	二〇三、三七五兩
赤糖	四九、七三九担五一	九九、四七八兩
白糖	二九、九〇一担一〇	八九、七〇六兩
藍	四八、六〇五担一九	一七〇、一一九兩
牛皮	五、六七〇担〇八	四〇、二七五兩
桂皮	四三五担九五	二二、七七九兩
豕	四、四七二頭	二六、八三二兩
	六、〇六九担四七	七二、八三五兩

瓊洲

位置 海口 物産  
ホイホウは海南島の首府瓊洲を距ると殆んど三英里半にあ



り北緯二十度零二分二十六秒東經百零九度四十八分十秒に位置す千八百七十六年定めて通商互市場となす所なり人口約一萬二千民物未だ甚繁盛ならず近傍瓊洲府は人口四萬府外大海を環らし高山大林多し封域廣袤三百里支那人稱して海外の要區西南の屏障となす治下洲三縣あり物産は波羅密椰子檳榔沉香速香瓊枝紅藤簞海漆烏巫花梨木玳瑁車渠鐵樹花荷知風草等あり風土は稍健康に宜しからず又た清水の供給頗る乏し

碇所及船水

此地未だ外人居留の設けあらず現に外國人の來住するもの僅に六人船舶碇泊所は河口即ちホイホウを距ること殆んど二英里にあり潮水の満落は極めて不規則にして加ふるに港口は北方に一つの防波障なく往々颶風の侵害を免れず且つ

港口より海岸に近づくに従ひ水甚だ淺く其の満潮の時にあらされは貨物を搭卸すると能はず然れども運輸は外國汽船の便に資り其の貿易自ら盛なるの傾あり漸く臺灣諸港と互に相競争せんとするの勢を見る

貿易 千八百八十九年貿易の總額は二百二十九萬五千九百四十九兩にして内一百二萬八千四百十七兩を外國産輸入廿六萬九十九兩を内國品輸入とし百零零七千四百三十三兩を輸出及び再輸出とす今其の重なるものを擧ぐれば左の如し

外國産輸入

品名	數量	價額
生金巾	六、七四九反	一一、九七三兩
晒金巾	一七、〇三二反	三九、九六一兩
天笠布	一六、一九三反	二〇、〇一二兩



棉紗	一二、二〇反	二百八十四
羅世伊多	二、二四八反	二一〇、一二八兩
麥粉	五九担五六	一〇、七四七兩
亞米利加人參	二二七、八九〇ガロン	一〇、〇七二兩
石油米產國	一三四、〇六六担余	三一、五一三兩
米		三七、三〇〇兩
豆	二〇、八七六担二九	一八九、四五二兩
線棉	二、三一〇担三五	三六、〇九九兩
土布	三三一担余	三〇、九七八兩
蘇	二、五二三担余	一七、三七五兩
藥材	二二担三六	二二、五三四兩
絹布類	九、二三六担余	四〇、三八三兩
素麵		一一、六四四兩
		四九、六九八兩

内國産輸入

輸出之部

錫	一〇、八八六担余	七八、五七〇兩
卵	一、二八七担余	一〇、三四八兩
蘇	六、九九九、六五〇個	一七、六九九兩
草	九八三担六七	二六、四九〇兩
龍眼肉	三、五九二担九八	五四、八八三兩
豕	五〇、〇六三頭	二二、一四八兩
赤糖	九一、五八〇担余	三〇〇、一九六兩
白糖	二二、八二九担余	一九七、五八八兩
胡蔗	一一、六五六担余	七六、二三四兩
		五〇、六五二兩

龍州

地位

龍州は廣西省の西部にあり地交趾を控制し中國の藩籬入交の門戸たり北緯二十二度二十一分東經百六度四十五分に位す千八百八十九年佛領安南と陸地貿易の爲め公開したる互



市場なり府は松吉高平二河の會する所にあり二河の合流する者を左江と云ひ東流して南甯府の上流殆んど三十英里に至り西江に會す府の近傍の地勢險阻にして高山丘陵處々に崛起す而して地邊徼の要衝に當るか故に各處兵營を設けて警備を嚴にし電線を廣東及び西河沿岸各地に通し白色を経て雲南省蒙自に至らしめ又東京各地と陸線を接續せり

貿易千八百八十九年に於ける此地の正味輸入額ハ僅に一萬百六十三兩に過ぎず其の貿易の微々たる斯の如くなる所以は首として運般の不便にして輸送の費用甚た重きに因る試に今ハイフオンより輸入する運賃を計るに每百斤七弗以上を要せり然るに若し香港に於て外國品を買ひ北海に至り廉州より陸路欽州府上思及寧明府を経て龍州に輸送する時は其費

用僅々前者の半に過ぎず其差夫れ斯の如し誰か其薄費の道に趨らざらんや聞く佛國已に茲に見るあり安南フーランソンよりランソンに至る殆んど七十五里の間に一條の鐵路を布設し當に本年内に竣工を告ぐ可しと而してランソンは松吉の上流に瀕するも船ナシヤムに至て飛瀑急流の沮む所となるか故に顧ふに佛國は其鐵路をランソンに止めす更に歩を進めて二十英里を延長し以てナレヤムに至らしむ可し然るときは其貨物運搬の時日從ハイフオン至フーランソン瀛船一日從フーランソン至ナレヤム瀛車一日從ナレヤム至龍州支那船三日即ハイフオンより龍州に達する時間は計五日其運賃の算計亦每担一弗五十錢を過ぎざるへきか故に事果して茲に至らば其貿易亦望みなきにあらず然れども又茲に



一つの顧慮す可き者あり西江は其支流四方に貫通し廣西全部殆んど舟楫の便あらざるなきか故に若し支那政府にして釐金局を廢するとあれば西江沿岸の各都府は皆廣東より其需用を仰ぎ又其産物ハ之を廣東に輸送す可し其西江の航路中廣東より梧州に至るの間は航路頗る易く唯梧州より南寧府に至るの間時々急流ありて稍危険を感ずるものある者、如しと雖とも未だ嘗て覆没の害を聞かず若し能く舟子の熟練なるものを選択せば亦危険なかるへし其便斯の如くなるか故に釐金税を廢するに至らば安南鐵道亦能く敵すへからざらん乎然れども釐金の廢止も亦重要な問題なるか故に目下先づ鐵道を以て有利の擧となさるを得ず況んや該鐵道は其用獨り商用のみに止まらざるものあるをや

## 蒙 自

位置  
人口  
地勢

蒙自は雲南省東南隅臨安府に屬し府東二十里にして廣西省維摩洲を距つる二十五里に在り蒙自縣治のある處なり北緯二十三度三十四分東經百零三度三十六分に位置す千八百八十六年追加天津條約に依り始めて通商互市場となりたるものなり人口僅かに一萬を有し長さ二十英里幅十二英里なる渺茫たる平野の中央に在り縣西四里半に目則山あり横列二十余峯秀麗畫くか如く十數里外目を擧ぐれば一眸の中に在り縣東同じく四里半にして雲龍山あり盤廻幾んど數里中に右室あり千人を坐すへし又石洞あり百人を容るゝに足る其幽勝名狀す可からすと云ふ

城市 此地本と蠻地目則山と云ふ漢誤つて蒙自と名つく海面を抜



く殆んど四千五百英尺城市はソンコイの左岸に瀕せるマン  
ハチより二日間の行程にして安南境界より殆んど十八日間  
の行程にあり嘗て繁華の區に屬し無數の寺院各所に岑立し  
結構壯麗頗る見るべきものありしか往年回々教徒の亂暴以  
來民物蕭條今に其の零落を回復する能はず其遺址斷礎徒ら  
に人をして曩時の隆盛を想見せしむるのみ

氣候 氣候は稍溫暖なるも熱病大に流行し毎年盛夏の季に至れば  
劇烈なる疫病發生し民の之に罹りて斃るゝもの多し冬季に  
至れば人皆な樂を田獵に取る鴉鳥の如き十月の末に至れば  
萬群天を蔽ふて來れり

貿易 此地に於る貿易の景況は日に月に繁盛に趣くの傾あり近頃  
佛人の瀛船を用ひてソンコイ河を溯りラチケイに至る線路  
を發見してより從來ハイフオン蒙自間の行程殆んど一ヶ月  
の多きを費したるも今は僅かに十三日を要するのみに至り  
將來益々東京陸地貿易の望多し千八百八十九年佛國の領事  
館を此地に設け税關は同八月に於て開局し同年の末に至る  
まで貿易の總額二十八萬三千一百五十兩内輸入に係る外國  
産貨物の總額二千三百兩内國品三萬二千七百零五兩輸出は  
再輸出共八萬八千兩にして別に通過貿易の價額十萬百四十  
五兩なり

## 淡水及鷄籠

位置 淡水一名滬尾港ハ豐饒なる臺灣島北端の西面にして淡水河  
人口 口を溯る十八町餘右岸に瀕す北緯二十五度十分東經百廿一  
度卅二分に位置す人口殆んど十萬あり港は總て該島他の諸



く殆んど四千五百英尺城市はソンコイの左岸に瀕せるマン  
ハチより二日間の行程にして安南境界より殆んど十八日間  
の行程にあり嘗て繁華の區に屬し無數の寺院各所に岑立し  
結構壯麗頗る見るべきものありしか往年回々教徒の亂暴以  
來民物蕭條今に其の零落を回復する能はず其遺址斷礎徒ら  
に人をして曩時の隆盛を想見せしむるのみ

氣候 氣候は稍溫暖なるも熱病大に流行し毎年盛暑の季に至れば  
劇烈なる疫病發生し民の之に罹りて斃るゝもの多し冬季に  
至れば人皆な樂を田獵に取る鵝鳥の如き十月の末に至れば  
萬群天を蔽ふて來れり

貿易 此地に於る貿易の景況は日に月に繁盛に越くの傾あり近頃  
佛人の瀛船を用ひてソンコイ河を溯りラチケイに至る線路

を發見してより從來ハイフオン蒙自間の行程殆んど一ヶ月  
の多きを費したるも今は僅かに十三日を要するのみに至り  
將來益々東京陸地貿易の望多し千八百八十九年佛國の領事  
館を此地に設け税關は同八月に於て開局し同年の末に至る  
まで貿易の總額二十八萬三千一百五十兩内輸入に係る外國  
産貨物の總額二千三百兩内國品三萬二千七百零五兩輸出は  
再輸出共八萬八千兩にして別に通過貿易の價額十萬百四十  
五兩なり

## 淡水及鷄籠

位置 淡水一名滬尾港ハ豐饒なる臺灣島北端の西面にして淡水河  
人口 口を溯る十八町餘右岸に瀕す北緯二十五度十分東經百廿一  
度卅二分に位置す人口殆んど十萬あり港は總て該島他の諸



港に於ける如く煩はじき淺洲ありて船舶の通航に大なる防  
 碍を與ふるを以て貿易の發達を妨ぐる少しと爲さず此地千  
 八百八十四年佛將クルーバー氏の砲撃以來其名漸く世に著  
 貿易し本港貿易の總價額は千八百八十八年に於て五百六十六萬  
 六千四百零四兩にして其翌千八百八十九年に於ける價額ハ  
 五百二十六萬五千零零四兩とす今同八十九年貿易の概況を  
 記すれば左の如し

内外各國商船の該港に出入したるもの之を前年に比すれば  
 稍多し其噸數の尤も多きは清英兩國の船舶にして其船數の  
 多きは日耳曼國を以て最とす其稅關の調査に依れば出入船  
 の總數二百九十二隻十七萬五千五百零一噸にして内鷄籠よ  
 りするもの一百三十二隻七萬六千八百三十九噸とす同年間

外國輸入品中諸布類の銷費は之を前年に比するに稍其額を  
 減するの氣味あり是れ内國產布疋の販路を此地に擴めたる  
 に依る殊に其西洋より輸入する扣布の如きは年々其輸入額  
 を減するに至れり今千八百八十五年以降日本布と扣布との  
 比較を擧ぐれば則ち左の如し

千八百八十五年	日本布	二万二千八百七十四反
	扣布	二万二千八百三十五反
八十六年	日本布	四万一千七十五反
	扣布	八千一百八十一反
八十七年	日本布	三萬四千七十五反
	扣布	一万一千八百八十反
八十八年	日本布	二萬六千八百五十二反
	扣布	四千八百九十反
八十九年	日本布	二万四千九百十六反
	扣布	五千四百反

西洋扣布の減少斯の如し是れ日本布と内國產とは其品質堅  
 良にして其價亦甚た廉に隨て其需用増加したるに依れり  
 金屬類中鉛の輸入は一萬三千九百廿三担之を前年に比すれ



は増加すると二萬担にして其他は前年に比し甚しき差異を見ず火油の景況は之を上年に比すれば大に好結果を呈し其額五十九萬八千六百九十「ガロン」にして前年は三十四萬四千一百七十「ガロン」なりし摺附木は之を上年に比すれば畧同しく其額八萬六千五百九十四「グロス」其價一萬九千三百十四兩にして皆日本産に係る洋傘は年々其販路を廣むるの風あり其千八百八十年前僅に三千廿七本なりしも翌八十九年には増して一萬二千六百四十一本となれり麥粉は二萬四千二百三十九兩にして最近五年以來未だ此の如きの多きを見ず其他人參鰯等あるも其額甚た少くして云ふに足らず其人參は皆日本中等人參にして其價格僅に四百一兩のみ又同年間に於る内國産輸入に在ては概ね雜多の小物貨のみ

其稍大なる者は夏布にして次は豆、爆竹、金針、菜、綢緞等とす其輸出にありては本港附近の地は土質沃饒米田甚多く殊に砂糖を産出すると極めて夥多加ふるに其地味茶樹に適するを以て近年之を培養するもの多く高隴平壤一帶の地方悉く茶樹ならざるはなし就中其台灣烏龍と名けらるゝ者の如きは年々其産出額を増加し其千八百七十二年に輸出せしものは僅かに一萬九千五百十三担なりしも其翌千八百八十九年に至りては十三萬七百七担の多きに上れり之に反して樟腦は年々甚しく減少するを見る蓋し樟樹を濫伐して其儘之を賣却すると曾て該島到る處流行したるに因れり

港  
鷄籠

鷄籠一名基隆港は淡水と全しく台灣島の北端にして其東面にあり淡水港と背對す北緯二十五度九分東經百二十一度四



十七分に位置す市街は山を負ひ海に臨み山水清秀風光明媚たり此地素と一小村落に過ぎさりしも久しく廈門福州及其他の本土諸港と交易し近年外國貿易の開くるに及ひ漸次繁盛に至るの傾あり殊に近頃鐵道の此地より淡水に通するあり他日必ず隆昌の互市場たるに至らん抑西人の此に來る西班牙人を以て始めとし後和蘭人の畧取する所となり尋て海賊コグジンガなるもの此地を占領して自ら台灣王たりしとあり向きに清佛交戦の時佛將クルベール氏砲撃以來淡水と共に大に世人の知る所となれり

産物  
貿易

此地土産の重なるものハ煤炭にして近年其採掘額大に増加し殊にコールハーポール炭礦の如きは政府の所屬に係り其器械掘法皆洋式を用お其規模頗る廣大なり然れども其他の炭礦は皆舊式にして其産出も亦大ならず硫礦は附近の山谷到る處之れ有らざるはなしと雖ども官之を採取製造するを許さず此地の貿易は概ね煤炭の一種に止まり千八百八十九年に輸出したるものは四萬三千四百十九担なりとす

臺灣港及打狗

臺灣  
港

臺灣府は臺灣島の西南部にあり北緯二十三度六分東經百廿度十四分に位置す千八百八十九年改めて臺南府と云ふ本島の首府にして隨て商業上の中心なり人口廿三萬五千府周繞らすに城壁を以てす其の全長五英里あり市街は他の支那市街と比し道路家屋共に稍清潔なり此の東方三英里よして即ち互市場安平港一名臺灣港あり其の地稅關あり兵營あり亦蘭人築城の跡あり電線は千八百八十七年淡水より福洲安平



より澎湖島の間に海底線を架し千八百八十八年に至り淡水より台南府城に陸線を架し之を安平に通したるが故に頗る通信の便を増せり港は風浪を遮るに足る可き蔽障なく加之海水甚だ浅く船舶は海岸を距ると殆んど一英里の所にあらされは碇泊すると能はず又た毎年十一月一日より翌年五月の末に至る間は港内平穩なるも其西南恒風の候に至れば大浪港を暴し往々貨物を上下する能はさるとあり然れども其の氣候人生の健康に適するは他所の及はざる所にして夏時に至れば涼風熱を洗ひ十一月初より翌年四月の末に至るの間は降雨甚だ稀にして天氣溫和頗る人意に適せり

打狗港

打狗港は安平港の南北廿四英里の海岸に位する一の通商互市灣にして臺灣港と互に消長を相成す其の貿易は砂糖を以

て大宗とし其の砂糖の市場を閉つるの候に至れば船舶の來るもの甚だ稀なり

安平港は近年に至り大に貿易上要用の勢度を増し之に反して打狗は年々其の樞要を減殺し外人等は其商館住屋を撤去し以て安平に移轉するに至れり

貿易

砂糖は臺灣南部の重なる輸出にして打狗安平の兩處を計るに千八百八十年には九十九萬七千六百九十担の巨額を輸出したりしか千八百八十六年に至り俄然大なる不景氣を生じ三十六萬二千八百二十六担となれり然れども其の後漸く勢を復し千八百八十九年に至り五十四萬四千二百廿四担に上れり而て其消費地は天津上海芝罘に入るもの計廿二萬九千零七十二担日本に行くもの三十一萬五千百五十三担香港



に行くもの五千六百二十七担とす其の他諸外國へ輸出するものなし抑も此地貿易の總價額は二百七十六萬二千八百六十六兩にして其の内鴉片の輸入と砂糖の輸出は本地貿易の五分の四を占め其の餘は云ふに足らざるを以て若し日本にして將來打狗糖を消費するなからんには台灣の貿易は必ず大に衰勢を來すに至らん蓋し所謂打狗の砂糖は概ね日本の消費に供するの勢にして其の輸入消長は以て本地貿易の盛衰を制す可きの力あるものなればなり而て其の安平砂糖の日本に輸出するは甚た稀なり其他輸出の重なるものは樟腦にして同年間の輸出額五百九十五担とす又其の輸入にあつては鴉片の輸入總計二千七百九十一担内三十九担は再輸出に係り其正味輸入は二千七百五十担餘之を前年に比すれば

八十担餘を増加せり其他安平打狗の二港へ輸入する雜貨には火油洋針燈袴皮扇あり其消費頗る多し然れども其中最も重なるものを火油とし其消費額年々増加し千八百八十七年には僅に八千百箱に過ぎざりしも同八十九年に至り竟に二萬九千五百箱に上れり千八百八十九年に於ける當地貿易の總價額は二百七十四萬六千四百六十四兩にして之を上年に比すれば十一萬五千五百五十六兩を減せり

## 香港

位置地勢

香港は廣東省の珠江口に在る一小島にして長さ十一英里幅五六英里澳門を隔つる四十英里廣東港を距る九十英里北緯廿一度九分より廿二度一分東經百十四度五分より百十四度十八分の間に位す人口廿二萬餘山脚海濱より起り其脈東西



に蜿蜒し全島皆山岳を以て成る其最も高峻なるの點は三四千尺に至る北濱埠頭を開く是即ち香港の貿易市場なり故に此地の市街は海岸に沿ひ紆餘して山麓を繞り其長さ四英里に及びウキクトリヤと稱する街衢を除くの外は皆外國居留人の住居にして屋宇は山の斜面に在り築くに石或は煉瓦を以てす戸數六千其結構宏大壯麗其傾斜は緩慢にして樹木處々に繁茂し高樓雲閣層々相重りて山頂に達し晝は白堊天に映して爛然日光を奪ひ夜は滿港の螢火燦然として金龍波間に躍る風光絶佳明媚掬すへし北方一葦の海峡を隔て廣東新安縣の山嶺屹立し島嶼點綴風景絶佳なり此地素と香山と稱し清國の所屬なりしか一千八百三十八年鴉片戦争和議の後清の道光二十六年<sup>我天保十三年</sup>南京條約に依り英國の所屬に歸せ

り蓋し東西洋航路の咽喉に當り船舶出入の繁忙なる實に東洋諸港に冠たり

港灣

港は左右の兩岸高く海中に突出し水深く内濶く幅員殆ど方十英里ありて數千の船舶を繫泊するに足る而て其港口の形勢善良なるを以て出入碇舶共に危険の憂なきのみならず進口の際數里の迂廻を要せざる等の便利ありて世界最良港中の一なり其去來の船隻は其數實に夥しきものにして日本諸港及清國廈門福州汕頭台灣其他沿海諸港に出入する船舶を首とし濠洲渡航の船舶歐米各邦の郵船に至るまで上海橫濱等に航するもの其往復を問はず皆此港に投錨す港内は各處に燈明臺を設く其グリーン島に於けるもの、如きは西方の港口を照す爲に建設し殆ど十四英里の沖より見る



を得へく其東方港口を照すものはテギラー岬に在り其光射甚た強大にして之を廿三英里の遠より認むるを得へし其他各處に燈臺ありて航海者の指目に便す

市街

市街は大厦商館美を競ふて並列し道路廣濶清潔にして植るに樹木を以てす其中央の部分を歐米人商賣を營むの地方とし西方支那人の居住所とす曩に支那人の住家木製にして屢火災の憂ありしを以て爲に石屋を建設して之に僑居せしむるに至れり故に支那人の居住と雖も市街概ね清潔なり其建築は大抵三層の屋にして前に虚廓を設け歐洲東洋折衷の結構に去て恰も我東京京橋以南の建築に似たり

歐米人市街の中央には植物園あり種々の草木花卉を植へ四時共に美を競ふ内に噴水器あり斜面地あり又音楽台等あり

て公衆の散鬱に供す其公共場の重なるものをシチーホールと云ふ一千八百六十六年に起工し同六十九年に落成せしものにして宏大華麗なり數多の房室あり以て公衆の集會及舞蹈等の用に供す又内に演劇場博物館圖書等ありて何れも其結構善を盡し美を盡せり此地英國の領屬たるを以て同國の行政官は知事並に副官其他の官吏及裁判所長屬地書記官刑法官會計官同屬官等を置き又英國海陸軍の駐屯兵及六百餘名の警察官あり其衙門には議政局、定例局、輔政使署、消防局、巡理廳、官立醫院、警察署、天文臺、書信局、清民政務司署、衛生局、工部署、按察使署、庫務署、監獄等あり其學校にはウエグトリヤ、カレツチ、香港、パブリック、スクール其他宗教學校數あり寺院の主なるものをセント、デヨンス、カセドラル、天主教堂、一致教會堂

官衙  
及公  
共物



とす其俱樂部には香港俱樂部、普國俱樂部、ウキグトリヤ、クレ  
 リエーション、クラブ蹴球俱樂部等あり新聞には三種の日刊  
 英字新聞あり其毎朝發兌するものをホンコン、デーリープレ  
 スと云ひ其毎夕發兌するものをチャイナ、メール及ひ香港テ  
 レグラフィと云ふ其他オーバートランド、チャイナ、メールなる週  
 報あり毎二週間發兌のチャイナ、オーバートランド、ツレード、リ  
 ポートあり毎二ヶ月發兌の支那レビューあり又外に日刊清  
 字新聞五種あり此地の人口一千八百八十一年に於て十六萬  
 餘なりしも現今増して廿二萬餘に至れり豈に驚くべき増度  
 ならずや

## 日用

此地素と礪礪にして耕種の利なきか爲に日用菜蔬の如きも  
 亦總て廣東地方の輸入を仰ぐ且つ樹木少く又一の河流なし

## 製造

故に市街に水樋を設け山谷より清水を引に鐵管を以てす  
 工業は逐年大に進歩するの勢あり其重なるものハ砂糖製造  
 所にして支那製糖會社は二個の製糖所を有し一ハイースト  
 ポイントに在り一はパウリントンに在り其タイリー製糖會  
 社に屬するものは一個にしてクテリー灣に在り共に其規  
 模甚た大なり其他香港セメント會社製氷會社、製糸會社、及百  
 般の工業亦頗る盛なり  
 船渠は香港黃埔船渠會社所有に係るもの三個とす其内二は  
 九龍に在り一は香港島の南岸アバーデーン灣に在り皆其結  
 構宏大堅固にして就中アドミテルチー船渠の如は最大の甲  
 鐵艦と雖も容易に入渠するを得へく其長五百英尺頭幅八十  
 六尺尾幅八十英尺にして深さ基礎十九英尺とす其他大船巨



舶を容るゝに足る可き船渠亦各所に設置あり  
 貿易本港は所謂自由貿易港にして税關の設けなく船政局の報告ありと雖とも出入船舶の多寡載貨噸數の増減を掲載するに過ぎされは其輸出入の物品價格等を詳知すると至て難し蓋し無税關海口の商賈の營業に便なるは獨り貨物の賦税を免るゝのみならず其貨物品數及貯藏の噸數を隱蔽し時價を規ひ好機に投し奇利を博得せんと欲すればなり殊に本港は歐米兩州貿易の要衝に居るを以て其地方に通商するも預約直送の貨物にあらざるよりは必ず先づ本港に陸揚し需求を待ちて時價を規ひ然る后再ひ之を輸出するを以て常とす其本港貿易の重なるものは亞片、棉花、砂糖、鹽、麥粉、油、棉布、毛布、諸金屬、陶器、象牙等とす今千八百八十九年に於ける載貨出入船隻

及噸數を擧ぐれば左の如し

國名	入		出	
	船數	噸量	船數	噸量
米國	五四	八二四八八	四三	六八五四七
澳太利	一一	二二六三〇	一一	二二六三〇
英國	二五九一	三二四二九六三	二四九九	三二二四九一六
支那	一三四	一七一九九八	一三二	一七〇八八六
支那形船	一三五八九	一一二四七〇一	一五五四八	一三三三三九八
噠馬克	七四	二九六〇六	七一	二八一一五
和蘭	二	二〇五三	一	一一六四
法蘭西	七二	一三八六五一	六〇	一二八八一三
日耳曼	六三八	六〇〇四四八	六八七	五六五五九三
布哇	三	一一九七五	三	一九七五
伊太利	一四	二〇二三四	一一	一七九八八
日本	六六	九七四七四	三	三七九五



諸威	一四	一三四五四	七	六七八七
秘魯	一	二四五	一	二四五
魯國	六	一〇二二三	五	九二五〇
サイヤム	四	一九二五	四	一九二五
西班牙	二〇	一二四七〇	一七	一〇七五四
計	一七三二四	五五七四六四七	一九〇五五五	五八七七七六

其他不載貨空船入港九千四百廿二隻噸量六十三萬零八百八十九噸と同出港七千三百五十五隻噸量六十六萬六千零零九噸あり總計の船隻噸量共に之を前年に比すれば稍減少の氣味なり

#### 第四章 氣候

##### 經緯度

本部支那の地たる温帶中にあるもの多く熱帶地方に屬するものは獨り南嶺以南の地のみ而して其沿海の地を除き内地

に至ては日本と同緯度の地方に比すれば其寒温共に甚しく亦俄かに變化を生じ易しとす其北緯三十五度より以北の地は十一月より三月に至るの間は寒氣連續し風威凜烈河水凍氷す北緯三十五度より二十四度の間は其氣候稍温和にして著しき變化なく一歳間の平均華氏五十九度極熱の時と雖とも八十二度に上らず二十四度以南の地は冬の温度は畧平均華氏の三十八度四十五分にして極めて温暖なる時に於ては六十度に昇るとあり夏の温度は平均華氏の八十二度に至る今各省氣候の變化を概説すれば二八の兩月(陰曆以下倣之)は忽冷暴熱の天氣多く三九の兩月には必ず驟雨狂風あるを常とし梅雨の天は稻苗を蒔くの後半ヶ月にあり南陽の風は四月頃十八日間とし返寒は二十七日間にして十二月一月の

##### 氣候變化